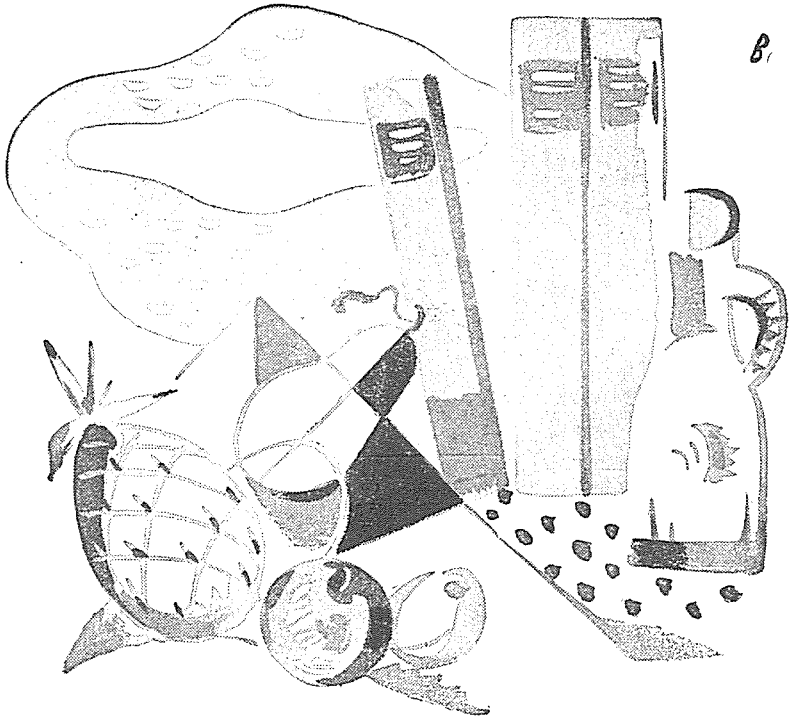
關西大學學報

第百七十四號

昭和十四年十一月



關西大學學報局發行

關西大學教授　片山正直著

倫理學新講

菊判上製
三三二頁
定價　貳圓八拾錢
送料　貳拾錢

◇最新刊◇

凡て生きた學問は時代の建設運動と結合し、進んでその魂とも光ともなるものを教示するのでなくてはならないが、このことは特に「倫理學」に於て肝要であらう。まさしく新なる時代は、新なる生命と內容とに溢れた「倫理學」を必要とする。本書はこの時代の要望に應へようとして生まれたものである。即ち本書は現代我が國の情勢下に、倫理の基本問題が如何に把握せられ、如何に實踐せらるべきかを十分に教示するであらう。

本書は「歷史的共同體的現實在」の分析より出立して、これを一貫する「根本倫理」を確立し、進んでそれが「德」として「共同體の體系」を媒介して、如何に展開實化せられるかを根本的に解明してゐる。加へてこの間に、本書は現下の諸種の思想問題とも對決し、明快適切なる解答を與へようとする。しかも貫くに整然たる論理を以てし、從來の低調な倫理學概論書には見られない體系的構成を持してゐる。廣く現下の建設的問題に關心を持たれる人々に一讀を勸める所以である。

內容概目　倫理的現實在——倫理學の課題・目的・方法——現實在の構造——倫理的自覺——根本倫理の確立——倫理生活の成立——三つの根本德——共同體の體系——倫理的世界觀

大同書院

東京駿河臺中央大學前
振替東京八一二三八番
電話神田二二二八番

大阪替振
北大阪電話
梅田一六七九
新田七五五
道二三二番

×　×

目次

歐洲戰爭と我國の經濟……正井敬次（一）
日本精神と風俗……江馬務（四）
學內報……（八）
靖國神社臨時大祭—明治節拜賀式—國民精神作興に關する詔書捧讀式—結核豫防の令旨捧讀式—第十四回大學祭—忠靈塔除幕式—體力檢定—高等秋季連合演習參加—三島律夫氏圖書寄贈—がくほう抄—高文合格者
校友……（一〇）
昭和十四年度校友總會—校友會常議員會—校友會評議員會—千里山學士會—福岡支部—大連支部—新京支部—齊々哈爾支部—會員消息
戰線だより……（一三）
忠靈塔祀祭者……（一六）
第十四回大學祭……（一九）
學生彙報……（二〇）
スポーツ關大……（二四）

歐洲戰爭と我國の經濟

專門部長教授　正井敬次

一

今回起つた歐洲戰爭が、我國の經濟にどういふ影響を與へるであらうか又は既に與へてゐるであらうか、而してまた大局より見て二十五年前の第一次歐洲大戰と今回の歐洲戰爭とに於て、我國の經濟に對する其の影響についてどういふ相違が存するであらうか。第一には大局より見たる右二つの場合の戰爭の我國の經濟に對する影響の相違、第二には今次の歐洲戰爭のために直接に既に我國の經濟が受けてをる影響、第三には近き將來に亘つての其の影響、などの點を指摘して茲に之を簡單に述べてみたいと思ふ。

第一の點については、元來外國の戰爭によつて一國の經濟が有利なる影響を受けるかどうかは、其際に於ける其國の政治經濟の情勢如何に繫るのであるが、二十五年前と今回とでは我國の諸般の情勢が大に異るが故に、今回我國の經濟は今次の歐洲戰爭によつては前の場合の如き有利なる影響は之を受けることを得ないと見ることが今回の常識であるかのように思はれる。

大正三年に第一次歐洲大戰が起つたのであるが、實際我國の政治經濟情勢は如何であつたかと云ふと、政治上に於ては對外的に何の問題も事變もなかつた、經濟の方は大正元年前後は景氣沈衰の時期であつて、當時は大學の卒業者も就職がらくでないと云ふ有樣であつた。それを以て知り得るように、當時は仕事が少なく勞働力が過剩であり一面資本も其の用途が閑であつた。要するに當時は休閑の資本と勞働とが多く生產活動量が少であると云ふ不景氣の時期であつた。そういふ際に大正三年に歐洲戰爭が起つたのであるが、其の國際經濟上の結果は如何であつたかと云ふと、歐洲の交戰國では當然に平和產業が抑制せられ加之海上不安のために、其等の國より世界各市場に賣られてゐた衣食住關係の輕工業生產物の輸出が杜絕した。そこで世界各地からの其等消費貨物の輸入注文が技術の進步してをる北米合衆國と日本に向つて殺到することになつた。時恰もよし我國は休閑の資本と勞働との多い際である、從つて世界各地の需要に應ずべく輕工業の急速なる生產擴張を實行することが可能であつた。かくして大正三年より八年に亘る數年間は纖維工業を主として一般輕工業生產物の旺盛なる輸出增加と生產擴張の時期が續いた。大正七年度の輸出貿易の繁榮が今日までの我國の貿易に於て最も顯著であり、また右の數年間に於ける我國紡績業の生產擴張が我國の產業史の上で最も特筆すべきものであつた。

第一次歐洲大戰のために右の如き有利なる結果を我國の經濟が收得したと云ふのは、前に云ふ通り當時我國に休閑の勞資が多く世界各地よりの商品の需要に應

ずるための生産擴張を容易に行ひ得ると云ふ、お誂へ向の狀態に我國の經濟があつたからである。

ところで今回の歐洲戰爭と我國の經濟との關係であるが、それは到底第一次歐洲大戰の際の如き譯には行かないのと云ふことが主とし我國現下の政治經濟情勢より推して何人によつても考へられてをる。政治的には支那事變と之に關係する諸多の困難なる國際的問題に當面してをる、從つて經濟は戰時經濟の狀態にある過去數年來我國は重工業の生産力擴充を急いでゐるのであるが、事變の爲に勞働力が缺乏してゐる上に、不急産業たる輕工業より時局的必要産業たる重工業に向つての資本と勞働との轉換が行はれてゐる。重工業の生産力擴充がもはや是れで充分であると云ふならば別問題であるが、然らざる限り此際我國には、歐洲戰爭のために豫想せられる第三國たる世界各地よりの輸入注文の增加に充分に應ずるだけの、輕工業の生産擴張に向つての資本と勞働とに充分でない。資本と勞働との狀態は右の如く歐洲戰爭の結果を有利に收得するに適してゐないのであるが、その上、今回の歐洲戰に際しては前回の際の如くに多くの輸入注文が我國に來るかどうかゞ問題である。戰爭が如何に展開するかゞ先決問題であるが、それは別として、前の時は銀塊相場の大暴騰によつて支那に莫大なる購買力があつたが、今回は支那に對する關係と狀態とが異つてゐる、また第三國各地に於ける技術の幾分の進歩と購買力の關係が各地よりの輸入注文の增加を前の時ほどに期待せしめ得るか否かゞ問題である。我國の輸出については大局的には樂觀を許さざる右の如き諸事情がある。次に輸入については、戰時經濟上の必要物資の輸入が歐洲戰爭のために不自由となり又は高價となるの不利益がある。何れにしても大體としては今次歐洲戰爭の我國經濟に對する影響は第一次歐洲大戰の場合の如くに樂觀的のものであり得ないのである。

二

大局論はさて置き、直接に歐洲戰爭が旣に我國の經濟に與へた影響を問題として見るときはどうであるか九月上旬に於ける歐洲開戰の報道と而してノムハンに於ける日ソ停戰協定は、確かに我國の經濟に心理的の好影響を與へた。支那事變の解決が有利に展開するであらうし同時に歐洲戰爭のために我國の貿易は繁榮を取り戻すであらうとの豫想が一般的であつたが爲である。豫想を取引する株式市場が斯の如き際には眞つ先に沸騰する。九月に於ける株式市場の繁榮は近來になきことであり、其の餘勢は未だ今日まで續いてをる。物價は一般に急激なる騰勢を示した。かくして政府は株式市場に對しては警戒の意を漏らすと共に、十月十八日には「價格等統制令」を公布して、商品價格・運送賃・賃貸料などの九月十八日現在價格以上への引上を禁止すると云ふ統制手段を斷行することになつた。蓋し物價統制は去る四月に中央物價委員會の作つた「物價統制大綱」によつて漸次に統制を實行ある筈であつたが、歐洲戰爭のために物價が急騰し其の統制は一日も忽かせに出來ない狀態となつたが故に、緊急の手段として政府は右の物價停止令を出した次第である。

歐洲戰爭が我國の經濟に好影響を齎すものとすれば其の實體は貿易の好轉と云ふ事實に存せなければならぬ、然らば九月より十月に亘つての右の如き我國財界の景氣は貿易の上に於て裏書せられたかと云ふに、如何にも此時期に於ては相當大なる輸出の增加と輸出品價格の騰貴とがあつた。九月十月の頃は例年輸出超過の時期であるが、九月一杯と十月二十日迄との約五十日間に於て、昨年は四億七百萬圓の輸出であつたが本年は五億八千三百萬圓の輸出を見てをる。輸入も昨年よりは增加してをるが、輸出入の差引に於て昨年は右の期間に於て九千九百萬圓の出超であつたが本年は二億一千萬圓の出超となつてをる。斯の如き輸出增加が戰爭のための輸入國側の見越輸入によるものであるかどうか、また斯の如き輸出增加が永續するかどうか、それは別問題として兎に角歐洲戰爭のために我國の貿易が當面には好影響を受けたことは事實である。右の如き貿易の情勢に對應して我國の國內物價にも相當の騰貴が現はれたのであるが、どういふ商品の價格が最も騰貴したかと云ふと、生絲を主とする輸出向の纖維類であつて其に次で布帛類・建築材料・肥料などである。二十五年前の歐洲戰爭の際には金屬類・工業藥品の騰貴が最も早く且つ大であつたが、今度は此種の商品價格は價格停止令のために騰貴することを得ず、統制令の適用から除外せられた輸出品である生絲・綿絲・人絹などの纖維類が眞つ先に騰貴したのである。右は卸賣物價について云ふのであるが、小賣物價についても九月より十月に亘つて日用の食料品などの價格が相當に騰貴したことは、我々の親しく經驗する所である。

貿易と物價の情勢は右の如くであるが、それには併し我國の圓爲替相場の下落と云ふ原因が伏在してをることを忘れてはならぬ。爲替相場が下落すると輸出入

商品の內國價格は當然に騰貴する。そこで輸出の增加が商品數量でなく輸出價額にて見積られる場合、爲替相場下落のための輸出商品價格騰貴が考慮せられなければならぬが故に、輸出超過の實勢はそれだけ割引いて考へられなければならぬ、國內物價の騰貴もそうである。是に於てか、何よりも先づ歐洲戰爭と我國の爲替相場との關係がどうであつたかを問題とせなければならぬ。

歐洲戰爭のために最も直接且つ具體的數量的の影響を受けたものは圓の爲替相場である。歐洲開戰前の本年八月迄の日米爲替は百圓對二十七弗半の程度であつたが、今日では日米爲替は百圓對二十三弗十六分の七と定められてをる。即ち圓爲替は約一割五分の下落を餘儀なくせられた。それは次の如き經緯によつてそうなつたのである。昭和八年以來我國の政府は圓貨の價値を英貨にタイ・アップ又はリンクする（結付ける）と云ふ爲替政策を取り、一圓對一志二片と云ふ爲替相場を一定不動のものとして、之を標準として對米なり其他の爲替相場を定めることにしてゐたのである。然るに英國の對獨開戰と共に英貨は不安となり其の對外價値は下落した。英貨に結び付いてをるわが圓貨の對外價値も當然の勢として下落する。即ち戰前には對米二十七弗以上であつた圓爲替は二十三弗臺に下落したのである。そこで我國の政府は英貨へのリンクを不安であるとして、今度は昭和八年以前にやつてゐたように米貨の弗爲替を標準とする方針に變更して、種々詮議の上漸く十月二十四日に至つて百圓對二十三弗十六分の七と云ふ日米爲替相場を固定的のものとし、之を標準として日英爲替なり其他の爲替相場を決定すると云ふ政策を定めることになつたのである。二十三弗十六分の七と云ふ相場は、英國の參戰のために英國でも英貨の下落を已むなきものとし對米貨との關係に於て英貨の相場をずつと引下げて一磅を四弗二仙に公定した、その英米爲替の相場から割出した日米爲替の相場である。

爲替相場の下落は輸出を促進する効果はあるが、輸入を不自由ならしめる不利益がある。また輸出商品價格を、而して惹いてはそれに關係する國內商品の價格を騰貴せしむる不利益がある。其は全體としての國民經濟にとりて非常な損失である、何となれば對外關係に於ては從來よりも多量の商品を輸出せなければ國際貸借の均衡を保ち得ないことになるからである。昭和七年以後の兩三年間は爲替相場下落のために、輸出增加と生產擴張と云ふ有利なる影響を受けた。有利であつたのは併し輸出促進のために生產が刺戟せられて經濟活動が旺んになつた點であつた。爲替相場下落のために從前よりは多くの商品を輸出せねばならぬと云ふ不利益はどうしても解消せられないのである。そこで輸出商品の生產を擴張する爲の資本と勞働の餘裕のある際には、爲替相場下落は國民經濟に生產增加のための好景氣を持來たす、併し資本と勞働とにその餘裕のなき際には右の如き良き結果を齎らすものとは限らない。今日我國の經濟が生產力の點に於て如何なる狀態にあるか、それは既述の通りである、是に於てか、今日に於ける歐洲戰爭の直接の結果たる爲替相場の下落が國民經濟に及ぼす終局の影響については、必ずしも樂觀を許さざるものがあると云はねばならぬ。

三

以上は我國の經濟に於て既に現はれたる結果であるが、次に今後に於て歐洲戰爭の影響が我國の經濟にどう現はれるであらうか。それは戰爭の模樣次第であるが此點は問題外とする。次にそれは我國の經濟が單に受動的の狀態にある場合と經濟國策の如何によつて能動的に動く場合とについて異るのであるが、今日の場合、從來の戰時經濟國策が一貫してをり或は更にそれが强化せられるものと豫想して之を考へることが必要である。すると結局こういふ事になる。歐洲戰爭のために近き將來に亘つては輸出增加、物價騰貴の傾向が支配するであらうが、之に對して東亞建設の戰時經濟國策の作用がある、そこで此二つの作用の結果が我國の經濟にどう現はれるかである。

東亞建設事業の完成を期するためには圓ブロックである滿洲北中支への輸出を制限してはならぬ。從つてこの事業を閑却せぬ限り、第三國方面への輸出は幾分制限せられるであらう。次に重工業の生產力擴充政策が堅持せられる限り輕工業の生產擴張と其生產物の輸出增加には限界が存在せなければならぬ。之に反して外貨獲得政策を一層重要視するならば、興亞事業と生產力擴充を一時犧牲にして輸出第一の方策を取らねばならぬ。いま我國は外貨獲得と興亞生產力擴充との二者選擇の立場に置かれてゐる。結局は何れをも捨てることを得ないが故に、どうなるかと云へば、歐洲戰爭のために若し輸出增加が續くならば、それだけ興亞事業は其の進度を幾分遲くせしめられるかも知れない。英國との現地解決の如きは歐洲戰爭のために促進せし

——第七頁下段につゞく——

日本精神と風俗

講師　江馬務

一

今やわが忠勇なる皇軍は陸に海に將た空に膺懲の聖戰を進め、さしもの蔣介石も窮迫僅かに餘喘をとどめてゐる。半面に於ては占領地は秩序恢復して興亞の事業は着々効を奏し、わが銃後の國民の任務は一層重大さを加へてゐる。此の場合吾人は常に「日本精神發揚、强調」といふ語を各種の宣傳や雜誌、新聞、言論界に見聞するのであつて、去る二月には日本精神發揚週間といふ週間すら設けられて學校青年團などは盛んに講演や遠足、勤勞をしてゐた。然るに此の期間に於て私は日本精神とは何であるかといふ內容に就ては一向發表されたのを見たこともない。私は試みに日本精神といふことを二三の人に尋ねて見たが、或は「忠君愛國の精神」と答へ、甚しきは明瞭に分らないと答へたのには私はたゞ苦笑を禁じ得なかつた。

こゝに於て私は當局に質したいのは徒らに聲を大きくするのみに止まらず、その內容を明示しない限り、大なる効果はあるまいと信ずるものである。本校では嚮きに日本文化史講座として諸大家の講演を行はれ、私も亦その光榮に浴し、その第一講として日本精神について自己の所見を明にしたが、今その一端を乞はるゝまゝに闡明することゝした。

二

元來日本精神といふ語は古くは用ひられてゐない、强ひて之を索むるならば、大和魂といふ語であらう。しかし、これは『源氏』などに見えてゐるのは日本文學の意に解せられ、又『愚管抄』には大和心といつて之れも同意義に解してゐる。しかし江戸時代には山陽の吉野の今樣に

もろこし人もこま人も　大和心になりぬべし

とか、本居翁の敷島の大和心などは、今日の日本精神と稍々似た意味に取り、賀茂眞淵翁は『敎居翁家集』の中に日本民族の氣象を純潔明朗で、萬世一系の皇室に忠誠をつくし神祇を尊崇する世界無比の國體として櫻木と比して居られるから、大和心も大體この意味であらう。井上文雄は又大和心を武士道精神に取り、源秀勝は之を仁愛精神に取るなど古人はその意味を、少しづゝ違へてゐる。

現今では日本精神に就ての研究が多數の學者により試みられ、歷史公論七ノ二には高須日大敎授はまづゝろを基本とする大忠大孝の精神とし、それに包容性、綜合性、光明性、漫美性、淡白性、實踐性を數へ、『立命館文學』一ノ四德重敎授は日本人的生活をなさしむる强い精神理念であると解いてゐる。

さて私は從來の諸家の說かれた抽象的の理論を離れ專攻の風俗史の上から見た日本精神を具體的に說かんとするのが本稿の主旨である。

さて我國は造化の三神が宇宙を造られし後、伊弉諾尊伊弉册尊がわが大八洲を生成し給ひ、御子天照大神に天地及び自然界を司る神々を主宰せしめ給ふた。この大神こそは畏くも皇室の御祖神にあらせられ、神勅により、その子孫をして國を統治せしめ給ひ、又國民の生活まで御軫念あらせられたので、米を以て

顯見蒼生の食ひて活くべきものぞ

と宣ひしことゞも知られ、爾來歷朝國民を愛撫し給ひ仁德天皇、醍醐天皇の御仁慈あり、明治天皇も

朝な夕なみをやの神に祈るかな
わが國民を護り給へと

と詠じ給ふなど恐懼感激に堪へない。又國民は畏くも天皇を現つ御神と仰ぎ　萬葉集三にも

大君は神に在せば天雲の
雷の上に廬せるかも

と尊び、その崇敬は理論を超越するの感があり、君國一體、君民一體の國體をなしてゐるのである。

日本精神はこの國體が中心となつて肇國の古へより生成されたものである。

三

先づ國民性による日本精神を檢討しよう。

我が國民性は時代によりて變化せしものと、開闢以來から存するものとある。この開闢以來、今日に至るまで、三千年を一貫して固定したる性情こそは、實にわが大倭民族の日本精神の根幹とも名づくべきもので

あらう。私は神代史から之を考査して次のものを數へることが出來た。即ち、

1、純潔清淨を尙ぶこと。
2、禮を正すこと。
3、天眞爛漫樂天的にして果敢なること。
4、勇敢なること。
5、風流を好むこと。
6、婦人は男子に貞順なること。

の五つが明かに觀取され得るのである。

1、純潔清淨を尙ぶ思想からいへば、これは强ちに外界のことのみならず、精神のことにも亦强調し得るのである。この起原としては伊弉諾尊が黃泉國に伊弉册尊を訪づれられ、その御姿の恐ろしさに逃げ歸られ黃泉の國の汚を日向國橘小門阿波岐原で衣服を脫して裸となり海水で洗ひ淸めて淸淨な御身になり給ひしに始まつてゐる。これは即ち死の汚を攘はれたもので、人生の最も凶事たる死、それにつぐ病、血などいふものは皆汚と感じたので、所謂災厄といふものは皆汚としたものであつた。かの素戔嗚尊が蘇民將來の家に宿を借られて、大に喜び給ひ、その子孫の災なからしめん爲めに茅ノ輪を腰に吊さしめ給ひし傳說も、病を攘ふといふ一種の祓であつて、六月祓の茅の輪はこれから出てゐる。又天孫瓊々杵尊が日向高千穗峯に下り給ひし時、霧が深かつて咫尺を辨せなかつたので土人に聞かれ、穗を撒いて霧を散ぜしめ給ひしは、霧そのものが、人の災厄となるもので、それを除去する一種の祓と見ることが出來る。後世も物の怪に稻を撒くこともこれに基づく。しかし心の汚は又別の方法の祓があつた。素戔嗚尊が天つ罪國に罪を犯されて天窟戸籠となり、再び天日を拜するに至つて、素戔嗚尊は千座置戸と稱し、自己の所有品を多數の机に積みて提供せしめ、爪を切り爪を拔いて神やらひにやらはれ追逐の刑に處せられ給ひしは、これで罪の贖ひとなり、犯せし罪も解消することゝなつたのであつて、これも一面心の汚の祓ひと見られ得るのである。この罪の種類は祝詞などで見ると、畔放ち、溝埋め、屎戸、生剝、逆剝生膚斷、死膚斷、白人、胡久美、上通下通婚（己が母犯せる罪、己が子犯せる罪、母と子と犯せる罪）馬婚牛婚、雞婚、犬婚（畜犯せる罪）といふ所謂不自然な行爲でこれは農人として本能違犯、惡感を起させる汚な行爲、皮膚病腫物の如き不自然な生理的現象、人性の自然に悖つた性的行爲である。和辻哲郎氏上代文化の研究、しかしその他の罪といふものは上代には祝詞には見えてゐないが、古傳說によると、人を害する罪（素戔嗚尊が天照大神に對する態度）人類、動物に仁愛ならざること（八十神）などは罪とされてゐたと同時に、天照大神や大國主命の最も敬慕され給ふたことは勇敢で上に對する尊敬下に對する仁慈の篤かつたことであつてこれが我國の神ながら道の主要なるものとなつてゐることである。されば心の罪汚を未然に防ぎ、萬一犯した場合には之を懺悔し、祓をなすべく身の汚、災厄を未然に防ぎ、萬一罹れば再び蒙らざらんが爲めにも亦祓をし、祓といふことは即ち不幸を除くことゝ心を淸めることゝを目的として同時に行はれるので、即ち心を淸むれば災自ら免るといふやうな筆法にもなるのである。この祓は六月十二月晦日に大祓として行はれてゐるのは最も大袈裟なもので、人形、解繩、切麻、散米などの外、麻などを用ひられ、人形は人間の形を象るもので、之に一撫一吻とて一度呼吸をかけて心の汚を之にうつし、身を撫でゝ身の汚を之に托し水に流して汚を去らんとするもので解繩は繩を捻り戻して汚を解くるに象へ、切麻は麻と紙を細く切り、之を撒布し、或は散米し、稻は前述霧島の故事、麻は天窟戸の時榊に吊した故事で、その神に對する祭具として用ひられ、後世は大麻を曳き、榊を振つて祓ふこともある。かの雛祭はこの祓の人形から轉じたものであり、又節分の撒豆も、緣起直しに鹽を撒くことも伊弉諾尊の海水で汚を洗はれし故事から出てゐる。又日本人が好んで風呂に入ることも即ち身を淸めて心を淨化する一手段と見れば見られるのである。風俗研究拙稿大祓について

2に述ぶ可きは禮を重んずることで、これは神代から既にその風習がある。伊弉諾尊が伊册弉等と八尋殿の心の御柱を廻り給ふ時、女神が始めて言葉をかけられたので祟があつたとされ、次に男神より先きに言葉をかけ給ひし如き、夫婦の序の始めより定れるを知られ、酢荷命が彦火々出見命を襲視して悔悟し、御弟ながらも君位にある爲に服從を盟はれたのと、上代に於ては稚郎子皇子が先帝の御遺詔を聞き給はず御兄を踰えて即位するを御遠慮ありしなど、幾多の例を擧ぐることが出來る。儒教が入つて禮は六藝の中に加へられ愈嚴となり公家には故實、武士には武士道、小笠原、伊勢流が起つたことも禮の正しきを好む國風なることが知られる。我國では俗に「行儀の惡い」のを忌み、之を本人のみならず家の恥とすることゝなつてゐる。されば昔から裸を忌み肉體を示すを以て肌とし、風呂に入るにも衣を被て入り、江戸時代で奴が褌したまゝ

風呂へ入つてゐる圖がある。況して婦人は腰に布を纏うて入る。今も湯卷の名が見えてゐるのは此故である。

3、天眞爛漫樂天的なることと果敢なことは日本國民の神代ながらの姿で、昔から日本民族はいつも明朗で、屈託なくその日〳〵を樂しみつゝ各自業務にいそしんでゐる。天下の大事といへども決して左程に恐れない。かの元弘の役に十萬の蒙古勢が襲來した時の國民の雄々しき姿は何うであつたか、これこそ紀平正美氏の所謂「何くそ」といふ態度を持してゐる。されば昔から興言せぬことを誇り、言騒く煩瑣な議論や理窟は好まない、一朝事あらば徹底的に實行善處する國民であるともいへる。かの隱遁者流の思想は日本人本來の思想でなくて、佛教の齎らした思想なのである。日本人はかくどこまでも爽やかに朗らかな國民である

4、勇敢なことは我國の國號が細戈千足國とて武器の精鋭にして充足せる意の國であることからでも知れよう。國の創造が天瓊矛の一滴から起つてゐるので、國土の經營も、主君に對する忠勤も皆これ武力によつてなし、遂げられたことを想像するならば、國家民の勇武であつたことも分る。神武天皇の御東征、四道將軍日本武尊、神功皇后の御親征、何れか武力ならざるはないかの錄倉權五郎は目に矢が刺さつてゐるまゝで戰つた俠客腕の喜三郎は片腕を鋸で引かせて平然としてゐたこの度胸こそ日本民族の特徴であつて、今日まで武威を輝かしたのも、當然であると思ふ。現在荒鷲隊の活動でも人の心膽を寒からしめるものがあるが、これは歴史的由來の遠いことである。

5風流を好むこと、神代には素戔嗚尊が雲の美しく立つを見そなはして八雲立つの御歌を詠じ給ひ、八千矛神も神武天皇も御歌を遊ばされた。萬葉、古今以下や凌玄集以下の詩歌の明作を觀て、いかに日本民族の風流の才に富めるかを知ることが出來るのであつて、殊に藤原時代の公卿の家庭では花の朝、月の夜、詩歌を詠じ、管絃を弄び、名所にあこがれるなど、實に一生を風雅の生活で一貫した如き江戸時代にありても日本人は櫻見には實に態々花見小袖を作つて花見にあこがれ、中秋觀月には月に供物を供へ月を祭り、その他四季折々さま〴〵の自然の變化には必ず出で、和歌俳句を作るなどの風雅を樂んでゐる。その他茶、花道、音樂などを好むのも風流の國民性を示すものといふべきである、なほ上代から傳統的國民性は、婦人は男子に從ひ貞順なることで伊弉諾伊弉册等御婚儀の時、女神より始めて語をかけ給ひし爲めに蛭子命が生れ、三年間足立たず遂に天磐橋船に乘せて海に流し給ひ、次に男神より言葉をかけ給ひしことは男子が女子よりも位置高きを示せるもので、又上代は一夫多妻で、男子は幾多の妻を娶るも、婦人は一夫を守る風習であつた。須勢理媛が

あはもよ妻にしあれば、なをおきて夫はなし

といつたのも、その意味である。日本婦人が昔より外出の時には必ず顔を隱して出てゆくのも、一は貞操堅固を示したもので、上代には顔を隱すに游須比あり、下つて中古に市女笠あり、室町以降には被衣、綿帽子などがあり、皆これ日本婦人の極めて、つゝましやかな性質を示してゐるものである。

以上は皆日本精神を示すものであつて、その由來を神代以降に求むることが出來るのである。

四

次にこの輝しい國體に附隨して、又いろ〳〵の思想が從屬してゐる。それは1忠君愛國の思想の篤きこと2神祇の信仰の篤きこと、3祖先崇拜の念の深きこと4門閥を尊ぶこと、5家族主義なること、6外人と親しむこと、この六つを擧げねばならぬ。1に就ては、本稿の冒頭に記しておいたので今更喋々を要しない。

2、神祇の信仰は開闢以來のことで、神といふのは決して抽象的の存在でなく、皆倭民族の祖先として仰がれ、何れも偉大なる神德を有せられ、古來天地萬象人事の順逆は一にこの神々の總意であると信ぜられてゐた。されば神武天皇は鳥見山に報本反始の典儀を擧げられ、又天皇御即位の直後には必ず大嘗祭を行ひ、八百萬の神を祀り給ふ。神人間は實に微妙で、神意は神託により現はれ、又太古に俟つ。かくて政治も亦神意によりて行ふ故に、マツリゴト（祭事）といふ。祭政一致はこゝに出てゐる。中世神に詣づるは日課の如く祭禮は盛大となり、近世は各家神棚を設け、朝參り月參り、お十度を行ひ、神に厄除、幸運を祈ることあり殊に跣足參、裸參、水垢離などは己を苦しめて神に誠意を表現する方法であつた。3、祖先崇拜も敬神の思想と同一の出發點より發してゐるが、それに長上を敬し、恩を知るといふ思想とが混じてゐる。されば宮中でも天照大神の神靈たる神鏡を賢所に祀られ又皇靈殿を奉祀あらせられ、庶民にも氏神を祀り、祭祀を怠らない。中世武人には持佛堂があつて祖先の靈位を祀り又祖先の式年や命日には祭や法事を行はれ、墓參の風

もある。4、門閥を尊ぶ風習も古くからあり、皇族の御子孫は皇別、神祇の後裔は神別、外國人の子孫は蕃別と稱してその家格を明にし、皇別の長上の者が國政を執るといふのは昔の制度であつた。神武天皇の御時にも歩騎を交換して、その家格を豫め見る風あり、中古戰爭ある時には戰場に於て自己の門閥の高く祖先の功業ありしを大音聲に名乘ることすらあつた。「保元物語」の中に宇野親治は敵に對して

身不肖に候へども形の如く系圖なきにしも候はず、清和天皇十代の御末、六孫王七代の末孫、攝津守頼光が舍弟大和守頼親が四代の後胤、中務亟頼治が孫下野權守親弘が子に宇野七郎源頼治とて大和國奥郡に久しく住して未だ武名の名を落さず、左大臣殿の召に依つて新院の御方に參ずるなり

と、これだけ長々と自己紹介に及んで、さて接戰をしてゐる。今日舊家では過去帳を大切に保存し、又系圖帳を尊重して、絲組などには先づその血脈家格を調査することを大切としてゐるのも、この意味である。5家族主義なることも、我國風の一で昔は骨肉皆一家に群居してゐたのである。その風の近來まで存してゐたのは、飛彈白川村であつて、かの鄉の豪家遠山家は御維新前は七十數人住してゐたといふ。正倉院御藏の戸籍を見るも、亦これに類するものがある。西洋には息子が金滿家で親は馬車の馭者たるものがあるとの話で個人主義が盛んに行はれてゐるのと比して、誠に美風といはなければならぬ。6、外人を排斥せざるのみならず寧ろ日本人よりも優遇する風あることも注意せなければならないのである。例へば新羅の王子天日槍の子孫に三宅の連があつて、連は日本人の一の尊稱で性と稱し爵位の如きものであるが皇族の饒速日命十二世の孫小前宿禰の後は高橋連であり、秦始皇の子孫たる秦氏の姓は忌寸で連よりも上位であつたなど、外人でも日本人と差別を設けてゐないことが分る。朝廷は外人に對して厚遇し給ひしことは新羅が屢反し、支那が國書に不遜の態度を取りしと根本的の相異である。かの石清水放生會は、異國渡來の時、敵味方共に死傷多かりしより、神が憐と思召し、放生をすべき神託ありしより起り、赤十字精神として最古のもので、後世も高野山に文祿後の双方の死傷供養の爲めに建てられし島津氏の碑と好一對の美談である。

以上の外に日本精神として後天的のものに禪味を愛好する一面がある。日本民族は清々しさを好むと同時に濃艶より淡白瀟洒を愛する半面がある。この趣好は中世禪味と握手されて、隱遁生活となり、室町時代の茶道香道となつた。かの茶室の狹い天井の低い、壁の荒塗りの薄暗い室に松風の音を聞きつゝ幽玄閑寂の情趣を味はふ日本人は確かにこの趣味を解してゐるといつて宜い。

五

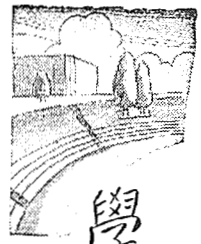
以上を以て大體日本精神を說明したが、之を要するに我が國の今日世界列强中に伍するに至つたのも、偏に此の精神によるのであり、今後興亞の事業も亦一に此の精神に俟つのである。たゞ日本民族が島國的精神をも有して雄大なる意志に缺けてゐるところあるは昔からその弱點とされる所であつて、あまりにも正直なる爲め往々外國に弄されることあるは、今後最も心すべきことであるが、又これら日本精神の遺憾なき發揮は往々にして外人に誤解を生ぜしめることもないではない。嘗て米國で日本人が茶室を作り、外人を招待したところ、外人はかゝる小屋はどこに面白味があるかと評したといふことである。これらは吾人の最も省るところだと思ふ。

なほ日本文化史の方面から詳細述べたいが、稿を改めて書くことゝする。

――第三頁下段よりつゞく――

められるであらう。併し興亞の經濟建設については、ゆつくりやらうと云ふ傾向が助長せしめられるであらう。而してそれも或る意味にてはよいことである。物價の問題については既に統制令があり若しそれが嚴重に實行せられるならば歐洲戰爭が大なる物價騰貴を持來さぬ筈であるが、併し統制の實行が一層困難を加へるであらうことを覺悟せねばならぬ。國民は以上の諸點を考慮して各自に自己統制の精神を强めることが必要であると考へる。

私は學部及專門部の講義に於て、九月の第二學期の最初の時間には休暇中に起つた經濟問題を捉へて之を話すことを年來の例としてをるのであるが、本年は九月に歐洲開戰があつたから其の我國經濟に及ぼす影響について話をした。それは大體以上に述ぶるような點（本文の一、二）についてゞあつた。其後多くの出版物で同一の問題についての學者實際家の意見を讀んだが、皆大體に於て私の言ふ所（本文一）と同樣であつた。そこで右の如きが今日に於ける此問題に關する常識であるのかと思つてゐる。



學內報

靖國神社臨時大祭

十月二十日は靖國神社臨時大祭御親拜當日なるを以て、御親拜の御時刻午前十時十五分を期し學部及豫科は千里山學舍校庭に於て、專門部は天六學舍校庭に於て遙拜式を擧行、護國の英靈に對し敬弔の默禱を捧げ神戸學長並に正井專門部長の訓話があつた。

明治節拜賀式

十一月三日明治節には學部及豫科は午前十時三十分より、專門部は午前九時より夫れ〳〵拜賀式を擧行した。

國民精神作興に關する詔書捧讀式

國民精神作興に關し賜はりたる詔書の捧讀式は、御下賜記念日なる十一月十日學部及豫科は午前十時三十分より千里山豫科講堂に於て、專門部第一部は午前八時三十分、同第二部は午後五時二十分より天六學舍講堂に於て擧行、聖旨を奉體して學長並に專門部長の訓話があつた。

結核豫防に關し賜りたる令旨捧讀式

本年四月二十八日畏くも皇后陛下より賜はりたる結核豫防並に治療に關する令旨を奉體し、十一月十四日を期して結核豫防國民運動開始され之が實績を擧げて御懿旨に副ひ奉るため、學部及豫科は十一月十七日午後一時より豫科講堂に於て、專門部は午後二時より天六學舍講堂に於て令旨捧讀式を擧行した。

而して捧讀式終了後學部及豫科は醫博谷口貞一氏、專門部は同二十一日午後二時半より天六學會講堂に於て回生病院長醫博菊池米次郎氏の結核豫防に關する講演があつた。

第十四回大學祭

十月二十二日（日）午前九時より千里山學舍運動場に於て大學祭式典並に體育大會を擧行した。詳細は別項の通り。

忠靈塔除幕式

興亞聖戰に護國の華と散つた本學關係の英靈を奉祀して永遠に偉勳を顯彰すべく、昨年より教職員學生生徒一同の絶大なる協力による寄附などによつて建設の工を起した忠靈塔は、學長初め學生生徒の勤勞奉仕作業その他寄附出捐等幾多美談を生み、前文部大臣荒木大將閣下の揮毫を得て、石匠「平清」の手により千里山學舍グランドの一角に完成した。

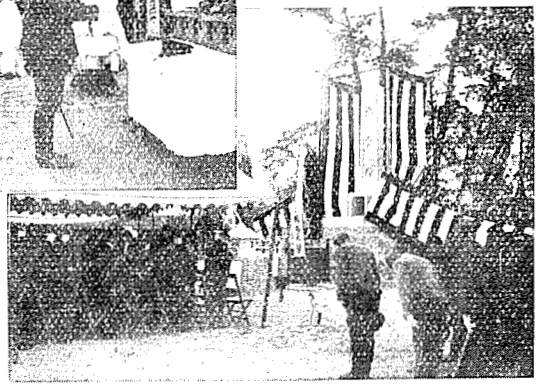
仍て十一月一日午後一時半より神戸學長祭主となり七十三柱の遺族はじめ熊谷部隊長、中防吉野少將外多數來賓參列の下に除幕式並に慰靈祭を執行、齊主の祝詞奉上、祭主祭文についで文部大臣、熊谷部隊長、大阪府知事、教職員總代、校友總代、學士會理事長、學生總代の弔辭ありて、玉串を奉奠し、終つて神戸學長より挨拶をかねて工事報告をなし、遺族代表の聲涙共に下る謝辭ありて三時半閉式した。

祭主祭文

時維昭和十四年十一月一日待望の忠靈塔工成り除幕式を擧行するを得るに至りたるは我が學園の擧げて欣喜措く能はざる所なり。顧みれば一昨年七月支那事變の勃發するや爾來我學園の出身者教職員及學生々徒に

（上）熊谷部隊長の弔辭

（下）祭主神戸學長の祭文奏上



☆

☆　☆

して勇躍召に應じて部署に就き重大使命を擔當したる者者頗る多く光榮ある戰死を遂げたる者のみにても既に七十三に上る、一學園にして此の如くに多數の殉國者を輩出したることは洵に本學の最も誇とする所にして平素本學教養の指標とする國家的精神を具現として後進指誘の上に貢獻する所のものも亦た決して輕視すべからざるなり。我學園者一同は深く之に感激し、又之を感謝し景仰措かず永く之を後昆に傳へんとの念は期せずして全學の一致を見ることゝなり廣く寄附を學外に求めず學内のみの力により忠靈塔を建設するの企畫を爲し漸く其工成るを告ぐるに至れり。

斯くて今後學園者は日夕此雄姿を仰ぎて斷えず其德に潤ふことを得べく忠靈塔は本學最高の聖地靈場として敬慕崇拜の中心となるべし。固より之に合祀されたる英靈諸士自らとしては男子の本懷之に過ぎずとの意氣を以て唯だ其責務に斃れたるに止まるべしと雖も其生前道を最高學府に尋ね高遠なる理想に燃え多大の抱負を懷きたるに偶々事變の爲め中道にして其の素志を貫く能はざるに至りたる其痛恨を想ふときは私情實に忍び難きものあり。特に父を亡ひ子を失ひ兄弟に別れ夫に先立たれたる遺族の心情を思ふに於ては惻怛眞に禁じ能はざるものあり。然れども今や興亞大業の礎石は諸士の力によりて確立し東洋の平和及人類福祉の黎明は諸士の手によりて漸くに開けつゝあり。諸士の功績は實に燦として輝く特に諸士の精神が我學園精神の具現として永く後進を教導せんとするあり諸士の肉體は亡ぶといへども魂魄は永遠に本學に於ける學徒の心裡に生く諸士以て瞑すべきなり。

茲に本學全員を代表して忠靈塔建設の由來を叙し併せて合祀されたる諸士の英靈を慰む尚くば來り饗けよ。

體力檢定

厚生省體力檢定は普く青年をして自己體力の現狀並に國民體育の本義に關する認識を深からしむると共に體育運動に對する關心と興味を喚起し、次代の中堅たるべき青年の體力の增强を圖り以て國力の根基を培養せんとする目的の下に走、跳、投、運搬、懸垂の五種目につき實施されるが、本學に於ける之が實施期間は專門部第一部は十月二十六、七、八の三日間、大學豫科は十一月三、四、五の三日間に夫れ夫れ實施し、學部は來る十一月二十、一、二、四の四日間に於て施行する筈である。

高專秋季連合演習參加

今秋關河泉の平野に於ける熊谷部隊秋季演習は目下實施されてゐるが、最終の十七、八の兩日熊谷部隊管下の高專校以上の學生生徒參加して行はれる連合演習に學部三年、第一豫科三年、第二豫科二年の約五百名並に專門部第一部第三學年の全部及第二學年の一部二百有餘名は配屬將校、教練教官指導の下に參加士氣を昂揚することゝなつた。

三島律夫氏圖書寄贈

關西甲種商業學校教諭三島律夫氏は故父聽惠氏の七周忌に當り亡父の藏書約九百册を今般天六學舍圖書館に寄贈された。漢詩集、漢學、禮學に關するもの多く故人の風格を偲ばしむるものあり、十月二十五、六の兩日は本部集會室に展觀した。目下目錄整理中であるが出來次第本誌上に掲載する。

がくほう抄

▽木村薩助教授　十一月九日より三日間文部省に於て開催の日本諸學振興會第一回法學會に出席「民法に於ける母の地位」なる研究を發表せられた。

▽片岡喜太郎教授　十一月四、五の兩日廣島文理科大學に於ける日本英文學會第十一回大會に「英文學の性格的研究」と云ふ題にて研究を發表された。

昭和十四年度高文合格者

司法科

辻井　幸一（昭八專二法）
野村喜兵衛（昭九專二法）
赤塔　政雄（昭十一專二法）
樽島　明（昭十二專二法 大法三年在學）
栗坂　諭（昭十二專一法 大法三年在學）
吳　寅生（昭十三專二法 大法二年在學）
丸物　彰（昭十四專二法）
林　正二（昭九專二法）
立入伴治郎（昭一〇大法）
法覺　豐松（昭十二專二法 大法三年在學）
本井　巽（昭十一專二法）
近藤　福大（昭十三專二法）
昌谷　光雄（昭十三專二法）
野崎　春夫（昭十四專二法）

高級図書書門

十二段家書房

大阪市都島区御幸筋東入
電話北四七七三

校友

× ×

昭和十四年度 校友總會

昭和十四年度校友總會は十一月五日午後五時三十分より大阪中之島中央公會堂三階大ホールに於て開催した。集まるもの第一回卒業の黑田母校理事はじめ大阪市議白川朋吉氏等二回、三回と云ふ五十餘年前の先輩校友や荒賀京都府議、加藤元和歌山縣會議長その他京阪神在住校友集ひて約一千名、さしもの大會場もあふれんばかりの盛況であつた。定刻樫本幹事開會を宣して皇城遙拜、戰歿將士の英靈に對し敬弔並に皇軍將士の武運長久祈願の默禱を捧げ、會長神戸博士の挨拶、內藤副會長の事業報告並に昭和十三年度會計報告をなし、次いで議事に入り會則一部改正の件を附議し、會則第八條役員中常議員「二十名」とあるを「三十名」第十一條評議員中「六十名」とあるを「百名」第十五條中常議員は互選を以て「三名」の常任幹事を置くとあるを「五名」の常任幹事を置く、と何れも本會役員增員の件を滿場一致を以て可決し、會則改正に據る役員選出方法を諮りたる處會長指名に滿場一致決定した。こゝに議事を終りて學歌「自然の秀麗」を齊唱、神戸會長の發聲により母校關西大學の萬歲を、黑田理事の發聲により校友會の萬歲を三唱して盛會裡に總會を終る。

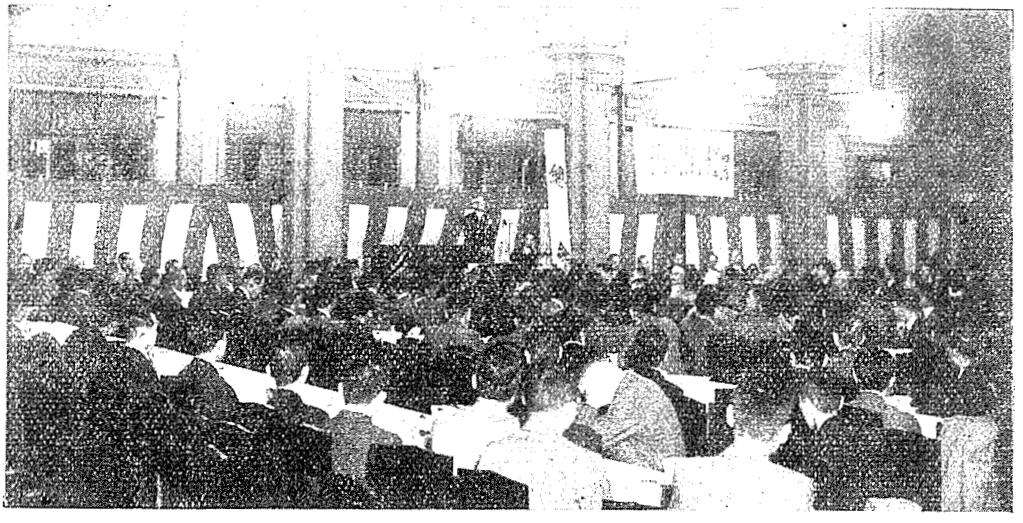
引續き晩餐會に移り和やかな歡談の裡に宴もすみ、豫定の講演會に移る。京大名譽教授末廣重雄博士は滿場の拍手に迎へられ登壇、歐洲大戰を中心として複雜怪奇の國情情勢に對して博士の蘊蓄を傾けた犀利な御批判は滿場の會員に多大の感銘を與へて盛會裡に午後八時意義深き大會を終了した。

因に事業報告を次にかかぐ。

是より昨年度總會に於て中間報告を申し上げました以降の本會の事業の概要並に前年度會計報告を致したいと思ひます。

先づ第一に昨年十二月會員名簿を發行配付しました從來の名簿が不備でありました爲新名簿は出來得る限り會員の住所、職業等正確を期したいと思ひまして昨年四月以來種々苦心を致し餘程改まつたものと信じますが、尙不備の點多々存することと存じますから今後會員各位の御協力に依り一層完全なものを作成したいと思ひます。尙名簿に相當の費用を要しますので遺憾ながら全會員に御送附することが出來ません。從つて學報と同樣に會費拂込濟の會員にのみ配付致して居ります故此點御了解願ひます。更に明年二月頃新名簿を發行する豫定でありますから各位の御盡力を願ひます

第二は校友會支部の設立であります。支部の增加は本會發展の表象であります。而して鹿兒島、高知、石川、齊々哈爾、靑島、京都、尼崎、牡丹江の八支部は會則に基き常議員の正式承認を經ました。尙續々各地に支部設置を見る狀態でありまして誠に欣快に堪へません。



校友總會に於ける神戸會長挨拶

第三に本會の目的の一たる會員相互の交誼を厚ふする趣旨の下に校友にして今事變に戰病歿せられたる護國の英靈に對して其の葬儀に際し弔辭を捧げ或は弔電を發して敬弔の意を表して居ります。又會員の榮進、榮轉に就いては祝辭を呈し去る府縣會議員の選擧には當選校友諸氏に對し祝電を發し祝意を表しました。

今後も努めて斯く致したいと存じますので御氣付の場合は本部宛御通知願ひます。

更に本年六月二十九日多年母校の爲盡瘁せられました故喜多村理事の學葬に際しては代表者を參列せしめ供花と弔辭を捧げました。又本月一日千里山學園内の忠靈塔除幕式並に慰靈祭にも代表者が參列して弔辭を捧げた次第であります。尚此の機會に校友會館建設の件に付き一言申し上げて置きます。

校友會館の建設は全校友の等しく熱望して居るところでありますが、昨年の總會に於て御了承願つて置きました如く事局柄急速に實現することは困難でありますので時期を見て實現を圖り度いと考へて居りますが大迄學校當局の御厚意に依り校友間の各種の集會或は講演會等に天六學舍の大學本部の會議室を御利用願ふことに致しましたから左樣御承知を願ひます。

引續いて昭和十三年度の會計報告を申し上げます。然し會則上會計年度は本年三月末日迄となつて居りますが、兩年度に亘りて會費拂込が爲されましたため計算上昨年末現在の收支計算に付申し上げます故豫め御了承願つて置きます。

收入は一般收入として會費拂込者千八十二名、金額三千二百四十六圓、預金利子九圓九十九錢、雜收入一圓八十錢、合計三千二百五十七圓七十九錢でありまして支出は事務手當臨時傭費用二百八十三圓六十一錢、出張旅費二圓六十錢、校友總會費千九十八圓十一錢、名簿其他印刷費千六百三十四圓十五錢、備品費九十五圓二十錢、通信費三百七十八圓六十錢、雜費二十八圓二十錢、合計三千五百二十圓四十七錢で差引二百六十二圓六十八錢の不足となつて居ります。

基本金收入は一時拂會員十三名外寄附一件で合計金六百五十五圓、預金利子四圓三十五錢、合計六百五十九圓三十五錢であります。此方は支出ありません。

尚本年度に置きましては既に會費拂込者千六百餘名を算し昨年に比し餘程增加して居りますが、本會の目的達成の爲一層會員各位の御盡力と御配慮を切望致します。以上に依り何卒御承認を願ひます。

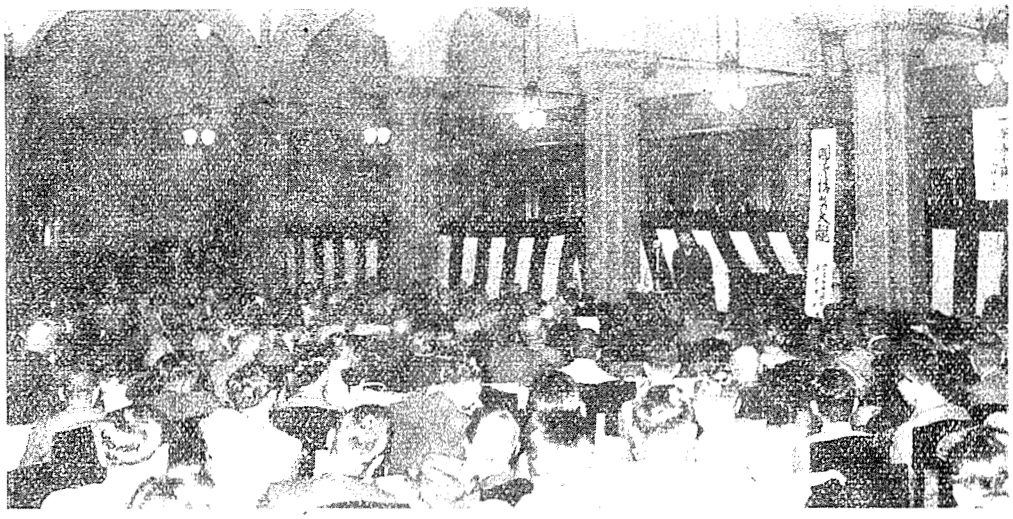
校友會常議員會

十月二十五日午後五時より天六學舍會議室に於て開催、本年度校友總會開催につき諸種の打合せ並に會則第二十三條に基し牡丹江支部設立の承認をなし、午後八時散會した。

校友會評議員會

昭和十四年度校友會評議員會は十一月五日校友總會當日午後二時半大阪中之島中央公會堂別室に於て神戸會長列席の下に開催、内藤副會長より昭和十三年度事業並に會計報告ありて承認、協議事項に移り本會役員增員に付ての會則一部變更の件並に會則第五條第五項の校友會員推薦の件を附議し滿場一致を以て可決決定した。

因に推薦會員は



校友總會に於ける末廣重雄博士の講演

武田鼎一氏（元教授、商學博士 武田經濟研究所長）
大山彦一氏（元教授、滿洲建國大學教授）
賀屋俊雄氏（元教授、三菱特派海防駐在）

當日の出席者

神戸　正雄　岩崎　卯一　原田鹿太郎　春原源太郎
大月　伸　加藤　清　桂　忠雄　河村　宜介
樫本　信雄　神屋敷民藏　吉村　種藏　武田　榮
内藤　正剛　植田　完治　松尾　高一　山崎　敬義
木下清一郎　三島　韋夫　森川　太郎　關　豐馬
角田好太郎　佐伯　三郎氏　永井　芳一氏

千里山學士會理事會

去る十月五日天六學舍會議室に於て、千里山學士會理事會例會を開催し左記事項を決定せり。

一、入會金徴收に關する件
千里山學士會入會金の件に關し、交渉委員を設け學校當局並に學級委員と懇談會を開催して具體策を研究すること
學士會交渉委員左記の如し
加藤金次郎氏　角田好太郎氏　柏元　孝治氏
神保　敏男氏　樫本　信雄氏　大島　武夫氏
春原源太郎氏　甲斐　龜夫氏　中野　由藏氏
今井　康雄氏

二、母校との連絡係選定に關する件
學内外の諸問題に付學校當局並に學生と密接なる連繫を採り之が向上發展を計る目的を以て連絡係を設置し之が實行に當ること。連絡係氏名左記の如し
加藤金次郎氏　山崎　敬義氏　角田好太郎氏
柏元　孝治氏　神保　敏男氏　樫本　信雄氏

三、運動競技等の振興對策に關する件
近時母校の運動競技の不振に鑑み之が打開策を講ずる爲今後大學當局關係諸教授（各運動部長）學友會委員等と懇談會を開催し之が振興對策を計ることとし右第一回懇談會を十一月中に開催することとなしたり

四、忠靈塔除幕式に關する件
除幕式當日萬胜の齋意を表して學士會より供物を奉獻すること
理事各員は式典に列席すること

五、役員選擧
理事長、副理事長、會計理事、任期滿了に付改選の結果左記諸氏選任せられたり

理事長（留任）角田好太郎氏
副理事長（留任）山崎　敬義氏
同（新任）樫本　信雄氏
會計理事（留任）柏元　孝治氏
同（留任）神保　敏男氏
同（新任）北辻　勝氏

（右役員の任期は昭和十六年春季總會迄とす）

六、出席理事各員左記の如し
加藤金次郎氏　山崎　敬義氏　角田好太郎氏
柏元　孝治氏　神保　敏男氏　樫本　信雄氏
鈴木　武夫氏　石田　孝之氏　佐伯　三郎氏
春原源太郎氏　中村　德藏氏　町田　種三氏
廣田　弘毅氏　大島　武夫氏　小田切　酉氏
河内　緑三氏　永井　芳一氏　北辻　勝氏
瀧本　謙吉氏　小山　市藏氏　上田　廣藏氏

戰線だより

山西　星川清典（昭十二專一面）

（前略）小生も元氣旺盛にて軍務に從事して居ります。陣中の暇には學報をうれしく拜見してゐます。袋井、久保田の兩教官殿の元氣な陣中だよりがありますが、同じ大陸に居り乍ら教官殿の部隊わからず、御無沙汰致して居ります。小生もまけずに東洋永遠の平和確立の使命のもとに奮鬪致します。自分達のある○○も秋やうやく終らんとして刈りとられた高粱の平野は美しく、峨々たる山西の嶮峻はやがて白皚々たる姿にかはることでせう。（後略）

中支にて　上西　茂夫（昭十二　專國）

露繁き草の根に人まつ虫の音も哀れた敗戰國の夕暮を告ぐるしめやかな秋を再び中支に迎へてもみぢ錦なすなつかしき故國の皆々樣の御動靜をはるかに御伺ひ申上げます。ふだんは何かと陣中事多く御無音の程あしからず御許し下さい。御蔭樣にて私事目下碩燿の中で元氣よくやつて居ります。（十月十一日）

藤澤辰郎（專二部三在學）

去る七月廿三日時局下名譽の召集を受け、東京近衛聯隊に入隊中の處九月末戰地派遣を被命征途に上り海陸無なく任地に到着元氣旺盛にて軍務に精勤仕居候、上陸以來到る處生々しい爆砲撃と激戰の跡を見る度に皇軍先輩將士の御苦勞が偲ばれ、また敗戰國民の慘憺たる生活を直視する時、戰には必ず勝たねばならぬと感ずると共に此の聖戰の導い眞意義が强く意識され、愛國の至情切々と肺腑を突く如く感ぜられ候。

福岡支部

秋季例會を十月八日正午太宰府神苑に於て開催、會員三々伍々遠近より參集、席定まるや支部長池田重吉氏立つて諸般の報告を爲して宴に移る。會員辻井安英氏が住友金屬工業會社鑄鶴出張所主任に榮轉せらるる送別を兼ね、宴酣なる際小倉上席檢事長本元男氏より祝電を寄せらるるあり、孰れも歡を盡してやがて母校の萬歳を祝して散會したるは六時頃なりきと

大連支部

九月三十日午後六時より海務協會に於て秀麗會第四十一回例會を開催す。

當回は差支の爲缺席者は多かつたが珍客直吉君奉天より來遊出席あり。奉天支部の活躍振りを聞き一同と共に喜び更に躍進を祈る。又當支部員にして長らく姿を見せてくれなかつた池内輝一、三栖龍一君の出席あり。例會そのものに一層の愉快さと親密さが加へられた。

時局談に花が咲き氣焔當るべからざるものあり誠に愉快秀麗會も回を重ねること四十回を越え、相當の基礎も出來零圍氣も亦味ふべきものあり。今後の例會には適當なる中心話題を豫め明示し置き、各自は之に對し研究もし又意見も述べることにし少しづつにても實的にも向上を圖つて行かうと云ふ提案あり。一同之に賛同、大いにやらうと意氣込む。話は中々盡きざるにもなかつたが次回を樂しみに九時半學歌を高唱し散會有意義に會を閉づ。

當日の出席者

木村　儀八　飯田　昇　室山宇太郎　秀島　至治　直吉巳一郎　三栖　龍一　加來　茂彦　池内　輝一　安達　竹七　平井　三朗

新京支部

九月三十日午後六時より大同大街青葉グリルで第四回國都例會を開催する。課題の無い會合は料理を食ひ終るとあとはお茶でも飲んで何か話でもない限り、大抵お仕舞になつて終るのが落である。そんな時は必ず何か新鮮な話しでもないものかと撰り合ふお互である。それは集合した皆が皆座の白けるのが嫌だし少しでも愉快な座に仕たいと思ふからだ。課題のない集合では毛頭ないが今日の例會は實に愉快だつた。幹事側から第一回よりの會計報告のあつた後此後の會費徴收の件から協議し次の樣な決定をみた。

一、會費月定徴集
二、例會開催日の確定
三、全會員を地方別に分け班制にし班長を置く
四、幹事の指名により一名毎月例會に於て研究發表

す

議案は第二にして校友の熱意が旬見えて愉快だ。例會の開催は毎月二十五日より月末迄、會費は班長殿が集め、研究發表は班の連帶責任にする事等である。少しでも知的なものをと云ふのは我々の素朴な念願であるが、研究發表と決議されて樣々の面白い顔が浮び出す議案を第一に提出した男はまあいいとして實務に携はるとどうも立つて話す樣なことはと今から羽音を吐く男がいると思ふと、計器類の商人巢君「闇相場でも話したら校友の御役人さんどうだらう」と奇拔な事を洩らしたりする。幹事の指名は例會の席と規定されたが此回のみは後日に讓つて議案を打切り、今回新人の振

江南の秋愈々酣にて官民一致戰後の復興にまた支那農民の穫入れ祭にも平和再來の有樣が窺はれ、日滿支共榮の新東亞建設も着々結實しつゝある如く思はれ候

（後略）

山西より　松下芳太郎（專二　商一）

（前略）小生も頑健にて日々軍務に精勤致して居りまする。山西も戰線も朱德が永久前に構築した陣地も我々の血潮によつて徹底に破壊され今は立つ能はずの狀態です。山西奪還を祭語したのもそれは遠い昔の夢で現在では彼自身の身の置き處もない有樣で、自分の墓穴を彼自身が掘つてゐるやうな始末です。

見渡す限りの大陸名物の高粱は七八尺になり、良民達は其の刈入れに大忙です。やがて木の葉が散り廣袤たる原地の枯野ケ原と變り、枯木に宿る鳥もなくなる樣な殺風景な大陸風景に包まれるのも間近の事です。我々は最後まで頑張り皆樣の御期待に副ふ決心です。

（十月六日）（專二法一在學）

南支にて　原　豐（專二法一在學）

懐しい祖國は天高く馬肥ゆる好季節でせう。こちら南支は文字通り綠兜をも焦がす暑さです。併し明け方はよほど涼しくなりました。私もお陸で相變らず元氣一杯で最前線で御奉公致してゐます。當地はも早や第二回目の田植も終り見渡す限り青田に化してゐます。もうすぐ穂も出初めませうが、雨が少い爲め平和を好む農夫は井戸、川、溝の溜水より精々と給水に熱中してゐます、頼もしい風景です。また一生涯水上生活をする蒼民族が舟棹を押して女も子供もホーイ〳〵と聲を合せて物凄さうに○○水江を溯つて行く長閑な場面も內地には見られぬシーンです。（十月八日）

垣進吾、大西幸夫、吉田憲一三君の自己紹介に移る最後に研究發表のカタログとして餘り上等過ぎたが、大山建大教授の「民族學の出發點」を拜聽午後九時靄々たる盛會裡に散會した。

當日の出席者

大山建大教授　板垣進吾　光井章雄
藤田藤一　岩崎繁男　三宅良孝
大西幸夫　中村光太郎　孫宗鉉
吉田憲一　佐藤丈夫

齊々哈爾支部

校友同志のより堅き團結と關大の名聲發揚をモットーとし北滿に關大ありとの誇りも高らかに躍進譜を奏でつつあるわが齊々哈爾支部では、今回會員の一人金融合作社勤務の滿原君の入營を祝し壯行會をかね十月例會を二十七日午後七時より新馬路元祿食堂に於いて盛大に開催、克山縣の山奥から招電一本によつて校友會支部例會出席の爲わざわざ齊々哈爾まで出て來られた北安省警察學校勤務の村上支部長を迎へてその熱意ぶりに會員の感激更に新たなるものありて開宴、劈頭滿原幹事の後任として支部長村松君を會計幹事に指名し、村上支部長の「學生時代の昔に歸つて」の言に在營當時を偲んで感激を深くしつつ宴は終始、滿原君の入營への激勵、學園の回顧、運動部興隆の變遷等學園の將來に就いての眞摯なる意見が述べられ、校友が述べられ校友の間に流れるしつくりした和らかな雰圍氣の間に特に運動部の奮起を要望しスポーツ關大の名によつて學園の存在を更に一段と强調して欲しいとの校友としての切實なる希望を吐露し合ひ又「祝滿原君入營」の國旗に會員一同の寄せ書きをなした。宴半ばにして思ひかけず管つての庶務幹事として本支部創設の功勞者であり、現在新京校友會支部の一員として重きをなす電々本社經理部勤務の志波君が社用出張で來齊せられたとて本例會に顔を出してくれた事は在齊校友の喜びを更に大ならしめ新京校友會の活躍を親しく聞くを得て感銘を新にした。宴漸く佳境に入り村上支部長の都々逸、森君の美聲による天に代りて、崎谷君の應援團幹事として昔とつた杵柄、名リーダー振りに依る拍手に甲子園の野球應援を思ひ出し、新入りの電々松本君の「春が來たかよ、關大の庭に」の音頭等全く學園の昔に歸つて本例會の意義を遺憾なく發揮し、興盡きるところを知らず記念撮影をなして十時過ぎ漸く散會した。

出席者

村上、森、滿原、松本、美岡、崎谷、村松、志岐

（事務所　齊々哈爾豐恒胡同一號　滿洲國通信社齊々哈爾支局內）

會員消息

村松　岩吉君（昭二　三法）　公証人、協議員として本學の爲盡瘁されてゐたが、十月十九日午後十一時逝去された、同廿二日天王寺區茶臼山町一八の自邸に於ける告別式には本學より黑田、玉木、內藤の各理事列席弔意を表した。

落合　正隆君（大三　專法）　辯護士、事務所並に自宅を東京市淀橋區百人町二ノ六〇（電四谷四四三八）に移轉

藤原　隆一君（大四　專法）　日刊工業新聞社調査部在勤住所は旭區森小路町六ノ二七

岡本　安治君（大五　專法）　辯護士、事務所を東京市澁

山本敬一（專二法一在學）

學窓より應召以來既に半歲を過ぎ中支の各地に轉戰仕候御蔭を以て益々頑健にして負傷は勿論風土病たるマラリヤも未だ知らず無事相過ごし申候既に幾多の戰鬪に參加し幸にして豫科の下村少尉殿や專門部の久保田少尉殿とも同隊にて誠に仕合に有之候戰塵の餘暇には民法書等に親しみ居候萬一にして內地の土を踏めば益々勉學に精出す覺悟何卒御指導御鞭撻願上候（九・三一）

大田義章（昭十二專一商）

小生は相變らず元氣一杯數十倍の敵を殲滅すべく追擊また追擊してゐます。當地は九月終りに初雪を見、只今はとても降りしきりつゞく山々は眞白です。（十・三一）

牧信清（昭十二　專經）

（前略）昨年九月應召以來大いに頑張つてゐましたが聖戰半にして中支漢口に於て不幸病魔に冒され、遺憾乍ら遂に內地歸還を命ぜられ、廣島に一時收容・部合にて當京都岡崎分院に轉送されて參りました。お蔭で其後經過頗る良好ですから全快の上は再度大陸に渡り更度奉公申上度祈つてゐます。（下略）

京都陸軍病院岡崎分院十二ノ一にて

樋口安雄（專二商二在學）

（前略）小生出征に際しては種々便宜御取計ひ下され深く後顧の憂ひ更になく東亞新秩序建設の爲微力を盡して漸圍致して居ります。軍務の片時にも學び家の恩愛忘れ難く母校の事共念頭を絕えず去來致して居ります。現在自分は今次事變皇軍最初の敵前上陸で有名な○○絶壁附近で巡り合せた學友と專心軍務に精勵致して居ります。此の附近は最も戰禍甚しく當時の激戰も如實に物語つてゐます。（後略）

谷區金王町七に開設辯護士事務に從事せらる

乾　英一君（大一三、專商）和歌山市十一番丁九に在住

辻井　安英君（大一五、專法）住友金屬工業會社福岡販賣店より、東舞鶴出張所主任に轉勤、住所東舞鶴市字餘部下六八六ノ一

松田　昇君（昭二、專經）蒙疆電業株式會社（蒙疆張家口大馬路門牌二五号）に入社

鷲下　益治君（昭三、大法）大阪府廳總務部を辭し、天滿織物株式會社に入社統制課に勤務

植山信太郎君（昭三、專法）神戸市灘區高羽楠丘六に轉

出口　三造君（昭三、專法）東京市板橋區志村西台町八八、東洋防水布製造會社志村工場に勤む

下村　監佐君（昭三、專商）住吉區万代西ノ六に轉居

増田勝左衛門君（昭四、大法）東京市大森區調布嶺町二丁目一〇八五に移轉

齊藤　濱君（昭四、大經）東京市王子區上十條五丁目三〇ノ二に轉居

丸山壹三造君（昭四、專法、昭七、大法）辯理士、特許事務所の電話南八三六一番に變更

岸本　芳夫君（昭四、專法）辯理士、事務所を東區南久寶寺町一丁目一三（電船場三〇八七）に移轉

川野　文也君（昭四、專英）東京市荏原區戸越町一一四

○移轉

綿　正圓君（昭四、專英）永く病臥中の處去る十月二十一日逝去さる、遺族は三島郡高槻町八幡町、是三寺（兄）綿一壽氏

荒川　勇君（昭六、大法）東淀川區三國新道七三に轉

中野　留吉君（昭六、專法）旭區新森小路中ノ四一に轉居

石川　好美君（昭六、專經）三島郡千里村片山ノ六に轉

白水　駿一君（昭六、專商）日產自動車販賣會社に轉じ福岡市西堅粕二ノ二九〇の同社福岡營業所サービス工場に勤務

加古撤次郎君（昭七、大經）大阪商工會議所を辭し、グリコ株式會社に入社、調査課次長に就任、同時に滿洲國大阪名譽領事館囑託として堂ビル七階同國大阪名譽領事館に勤務さる

菅　桂君（昭七、大經）山縣部隊本部付主計中尉より、福岡縣〇高射砲第四聯隊に轉ぜらる

大竹口喜平君（昭七、專經）日本電建名古屋支店長より同社大阪支店長に轉任、住所は兵庫縣川邊郡立花村水重字榎六

坂根　敏夫君（昭七、專經）木村と改姓、住所三島郡味舌村正音寺

中家　利國君（昭八、大法）福田桑商事株式會社に入社した。住所泉南郡春木町池尻

岩脇　明光君（昭八、大政）宣撫官として活躍中の處、無極縣顧問に就任、北支河北省保定道無極縣公署

鈴木　克己君（昭八、大商）兵庫縣武庫郡本山村岡本上庄屋七三三ノ一に轉居

濱田　光明君（昭八、專一法）住吉區濱口西ノ元に轉居

千倉　信義君（昭八、專一商）朝鮮大邱府三笠町一九、殖銀舍宅に現住

中村　忠夫君（昭九、專一商）泉北郡高石町羽衣三に轉居

長崎　孝紀君（昭九、專二法）旭區中宮町一五に移轉

關　敦君（昭九、專二法）南河内郡日置莊小學校訓導をつとむ、住所堺市百千鳥梅六七六、天野はつ方

竹田　義信君（昭九、專二英、昭一二、大法）島津と改姓、住所は西成區松原通一ノ四三

（前住所不明）

椋本　實君（昭一〇、大法）舊姓高見に復歸、住所は住吉區天王寺町三一四八（電天王寺一三〇〇）

川越　茂樹君（昭一〇、專二法）蒙古聯合自治政府大同警北政廳警務廳に勤む

森下　盤君（昭一〇、專二法）天王寺區烏ヶ辻町吉に轉

川島　補治君（昭一〇、專二商、昭一三、大法）住吉區帝塚山東四ノ一五、河添方に轉居

松浦　孝君（昭一一、大法）宮川毛織會社大阪營業所（東區安土町四）に勤務、自宅兵庫縣川邊郡川西町寺畑釜割谷三

木下　清君（昭一一、大商）三江省佳木斯伴部隊主計中尉より牡丹江林部隊本部付主計大尉に昇進さる

五島　進君（昭一一、專二法）三島郡吹田町一〇五に轉居

生島　徹三君（昭一一、專二商）神戸銀行榮町支店より三宮支店に轉勤

德田　鉉一君（昭一二、專二法）十月一日逝去さる

淺木　章君（昭一三、大法）山西省最大の財源たる運城の食塩採桑所に於て塩務指導官として活躍中、宛名は北支山西省運城、塩務局運城分局指導官

中村源之助君（昭一三、專一商）東洋綿花大阪本店より同社奉天支店（奉天瀋陽區大西街二段）に轉勤

原　二郎君（昭一三、專二法）久留米豫備士官學校生徒隊第一中隊第二區隊へ轉

足立　市藏君（昭一三、專二法）北區若松町一五、少年審判所内に轉

島津　德三君（昭一三、專二商）住吉區役所庶務課戸籍係長となる

福井　良一君（昭一三、專二商）大阪海上火災保險會社大阪本社より新京支店（新京特別市八島通三）に轉勤

堀田　眞二君（昭一四、專一商）滿洲本溪湖宮ノ原本溪湖特二殊鋼株式會社に入社會計課に勤務

前文部大臣荒木大將
閣下揮毫忠靈塔題字

忠靈塔祀祭者

（昭和十四年十月一日現在）
（戦死年月日順）

重松光夫君（經商學部經一在學）
陸軍歩兵上等兵　德島市北佐古町松ノ内七　昭和十二年八月二十五日中支劉河鎮ニ於テ戦死

大族正敏君（昭和十一大經）
陸軍歩兵伍長　鳥取縣氣高郡大和村玉津三九ノ一　昭和十二年八月二十九日河北省二堡附近ニ於テ戦死

新羽勝見君（二商昭九卒）
陸軍歩兵上等兵　德島縣那賀郡新野町豊田東馬場二八ノ一　昭和十二年九月一日江蘇省寶山縣獅子林砲臺附近ニ於テ戦死

岡田益實君（專二經三在學）
陸軍歩兵伍長　高知縣香美郡立田村二一一三　昭和十二年九月六日羅店鎮吳宅ニ於テ戦死

佐野　悠君（專二法一在學）
陸軍歩兵中尉　靜岡縣富士郡富丘村菅木七七六ノ一　昭和十二年九月十一日上海揚行鎮東方野安ニ於テ戦死

兒玉正三君（專二商三在學）
陸軍歩兵伍長　宮崎縣兒湯郡妻町妻二三三　昭和十二年九月十三日河北省兆平縣板橋村附近ニ於テ戦死

濱田重義君（昭和九大商）
陸軍歩兵軍曹　德島縣勝浦郡小松島町小松島松島一五ノ一　昭和十二年九月十四日江蘇省寶山縣張宅ニ於テ戦死

狩谷平司君（昭和七專二英）
陸軍歩兵中尉　茨木縣新治郡田余村高崎二九　昭和十二年九月十四日河北省永定河附近賈各莊ニ於テ戦死

小野恭平君（昭和十專二商）
陸軍歩兵上等兵　岡山縣上房郡津川村今津四九八　昭和十二年九月二十三日河北省滄縣胡楊子ニ於テ戦死

高井重彦君（昭和十一專一商）
陸軍歩兵上等兵　兵庫加西郡西在田村上這山　昭和十二年十月二日津浦線德州北方干庄ニ於テ戦死

高橋行夫君（專二經一在學）
陸軍輜重兵一等兵　廣島縣佐伯郡平良村上平良三三八ノ二　昭和十二年十月十四日山西省博縣新寶化ニ於テ戦死

平田圭藏君（昭七專二商）
陸軍歩兵中尉　彦根市髮町五九　昭和十二年十月十四日江蘇省寶山縣陳家行東方ニ於テ戦死

千代原橘雄君（關甲昭二卒）
陸軍輜重兵中尉　大阪市東區唐物町三一　昭和十二年十月十五日北支廣靈南方南關屋ニ於テ戦死

竹原弘君（昭和十一專一經）
陸軍歩兵上等兵　神戸市中山手通二ノ四二　昭和十二年十月十六日山西省平定縣舊關西方臺地ニ於テ戦死

中田昇君（昭和十一專二法）
陸軍歩兵上等兵　吳市藏本通二ノ六　昭和十二年十月十七日山西省樂等村西南附近攻撃戦ニ於テ戦死

堤幸昌君（二商昭六卒）
陸軍歩兵上等兵　大阪市旭區今津町一三　昭和十二年十月十八日山西省平定縣地都南方高地ニ於テ戦死

柴田源之助君（昭和二大經）
陸軍歩兵中尉　滋賀縣坂田郡息郷村西坂二五　昭和十二年十月二十七日江蘇省嘉定縣裏家橋百米東方ニ於テ戦死

澤井孝喜陸君（昭和二專法）
陸軍歩兵上等兵　滋賀縣坂田郡南郷村宮司四八一　昭和十二年十一月二十五日　江蘇省蘇州城外ニ於テ戦死

山中岩夫君（昭和十一大法）
陸軍歩兵軍曹　堺市中ノ町西三丁二三　昭和十三年二月四日滿洲國三江省嘉北縣羅北上街基ニ於テ戦死

小倉武雄君（昭和五專二商）
陸軍輜重兵中尉　大阪市北區木幡町六七　昭和十三年二月二十日山西省孝義縣大麥郊鎮ニ於テ戦死

紺谷清君（昭和八專一法）
陸軍輜重兵上等兵　西宮市東町三丁目一六五　昭和十三年二月二十日北支大麥郊鎮ニ於テ戦死

安達一也君（昭和八專一商）
陸軍歩兵伍長　大阪市東區玉造町五四三　昭和十三年二月二十三日山西省隰縣長壽村附近ニ於テ戦死

宮田正二君（專二國漢一在學）
陸軍輜重兵上等兵　三重縣一志郡八ッ山村八對野三六八　昭和十三年三月十六日北支山西省潞城縣神代村ニ於テ戦死

賀須井良雄君（專二法一在學）
陸軍歩兵軍曹　鳥取縣東伯郡泊村小濱八八四　昭和十三年三月二十三日山東省嶧縣轉莊運河北岸ニ於テ戦死

松原蕃君（昭和十一專一法）
陸軍歩兵伍長　奈良縣磯城郡川西村下永四四二ノ二

昭和十三年三月二十五日　河南省湯陰縣司馬村ニ於テ戰死

民野　猛君（昭和四專二經）
陸軍輜重兵中尉　鳥取縣氣高郡明治村上段四五　昭和十三年三月三十一日北支路安邯鄲間ニ於テ戰死

西田　弘君（關甲昭八卒）
陸軍歩兵上等兵　西宮市染殿町一〇　昭和十三年六月二日河南省靈陵縣張庄附近ニ於テ戰死

林　廣次君（關甲昭二卒）
陸軍輜重兵上等兵　大阪市此花區四貫島德平町二ノ十一　昭和十三年六月六日北支山西省安澤縣和川鎭ニ於テ戰死

山本善治郎君（關甲昭七卒）
陸軍歩兵上等兵　大阪市南區東清水町五三　昭和十三年六月七日山西省曲沃縣張玉村ニ於テ戰死

重本幸雄君（專二法三在學）
陸軍歩兵上等兵　德島縣美馬郡岩倉村岩倉一六〇　昭和十三年六月八日江蘇省南京上海派遣軍第三兵站病院ニ於テ戰歿

新茂秀君（專二法二在學）
陸軍歩兵伍長　鹿兒島縣大島郡笠利村屋仁　昭和十三年七月九日江西省湖口縣流澌橋ニ於テ戰死

平松勇君（昭和十一大法）
陸軍歩兵上等兵　大阪市此花區朝日橋通一ノ一九　昭和十三年八月七日山西省平陸縣馮庄西方ニ於テ戰死

村田正二君（昭和一〇專一商）
陸軍歩兵上等兵　大阪府北河內郡津田村津田一七一三　昭和十三年八月十九日中支常州ニ於テ戰歿

上岡祝太君（昭和十二專法）
陸軍輜重兵上等兵　岡山縣邑久郡幸島村西幸西七三　昭和十三年八月二十四日安徽省合肥縣三十里鋪ニ於テ戰死

千葉盛晴君（專二法一在學）
陸軍歩兵上等兵　香川縣仲多度郡佐柳島村七二八　昭和十三年九月九日中支浦口兵站病院ニ於テ戰歿

冨山謙吾君（昭和十一專二商）
陸軍歩兵上等兵　大阪府北河內郡庭窪八雲西南十番五四五ノ一　昭和十三年九月十四日野戰豫備病院第十四班ニ於テ戰歿

泉本俊男君（昭和十一專二法）
陸軍歩兵上等兵　岸和田市並松町一八七　昭和十三年九月十七日江西省瑞昌縣瑞昌南方臥龍池高地ニ於テ戰死

小澤實君（昭和九專一商）
陸軍歩兵中尉　滋賀縣大上郡多賀村多賀　昭和十三年九月十九日江西省瑞昌縣大鳳山附近ニ於テ戰死

坪木六郎君（專二法一在學）
陸軍歩兵上等兵　兵庫縣加西郡富田村窪田三〇八　昭和十三年九月二十一日河南省光州第一野戰病院ニ於テ戰歿

竹中力君（專二法一在學）
陸軍歩兵伍長　神戸市兵庫區大開通九ノ八ノ一　昭和十三年九月二十六日江西省德安縣白水街西側蹴蹴嶺高地ニ於テ戰死

西尾衛一君（昭和十一大法）
陸軍歩兵一等兵　明石市西新町五ノ九六　昭和十三年十月二日羅山第一野戰病院ニ於テ戰歿

田伸信義君（昭和十一大法）
陸軍歩兵中尉　奈良縣南葛城郡葛村秦勝五〇九　昭和十三年十月二日安慶第三野戰病院ニ於テ戰歿

岡崎一郎君（關甲昭七卒）
陸軍歩兵上等兵　奈良縣磯城郡平野村佐味六九二ノ一　昭和十三年十月二日河南省馬家店野戰病院ニ於テ戰歿

安東誠一君（昭和十二大法）
陸軍歩兵上等兵　兵庫縣城崎郡日高町久斗五八五　昭和十三年十月四日羅山野戰病院ニ於テ戰歿

大山勇君（昭和十一專一法）
陸軍歩兵上等兵　香川縣大川郡梨水村水主四三四二ノ二　昭和十三年十月四日河南省羅山第二野戰病院ニ於テ戰歿

藤田學君（昭和十一年大法）
陸軍歩兵上等兵　岡山縣上道郡高島村湯迫　昭和十三年十月七日天津門司間第八病院船內ニ於テ戰歿

田中新三君（昭和十一專一商）
陸軍歩兵上等兵　大阪市旭區赤川町一四六八ノ一　昭和十三年十月八日山西省平陸縣二十里嶺ニ於テ戰死

川西總太郎君（專二法一在學）
陸軍歩兵曹長　奈良縣生駒郡法隆寺村法隆寺　昭和十三年十月八日河南省羅山縣東樓高地ニ於テ戰死

宮崎藤平君（學生主事補）
陸軍歩兵大尉　靜岡縣小笠郡和田岡村高田一一一　昭和十三年十月九日河南省信陽縣九店附近ニ於テ戰死

橋本治君（昭和十二專二法）
陸軍歩兵軍曹　兵庫縣川邊郡中谷村銀山笹原一五　昭和十三年十月十日三江省佳木斯陸軍病院依蘭分院ニ於テ戰歿

高橋三郎君（二商昭四卒）
陸軍騎兵軍曹　栃木縣下益城郡小川町南小川五四三　昭和十三年十月二十二日江西省德安縣熊庄西北方高地ニ於テ戰死

渡邊滿雄君（專二法二在學）
陸軍歩兵曹長　岡山縣淺口郡六條院町中區五八〇三　昭和十三年十月二十七日河南省信陽縣譚家河野戰病院ニ於テ戰歿

金山慈式君（昭和十二大哲）
陸軍歩兵伍長　堺市柳之町東二丁一九　昭和十三年十月三十日北支山西省永濟縣東伍姓附近ニ於テ戰死

氏井一夫君（昭和十二大法）
陸軍歩兵上等兵　大阪府北河内郡四宮村下馬伏三三〇　昭和十三年十一月十日山西省大原野戰豫備病院ニ於テ戰歿

伸矢正典君（昭和十二專一南）
陸軍歩兵上等兵　大分縣南海部郡佐伯町一〇五五　昭和十三年十一月十四日江西省九江病院ニテ戰歿

河合德君（專二法一在學）
陸軍輜重兵上等兵　廣島縣深安郡廣瀨村北山一四二五　昭和十三年十一月二十日南支廣東省海南縣石圍塘第三野戰病院ニ於テ戰歿

貴島壽君（昭和十一大南）
陸軍歩兵軍曹　大阪市旭區友淵町四四　昭和十三年十二月六日中支江蘇省上海第七兵站病院ニ於テ戰歿

村治正吉君（昭和十二專二經）
陸軍歩兵伍長　兵庫縣川邊郡中谷村柏梨田ハサマ一七〇　昭和十四年一月十四日山西省永濟縣譚郭村外ニ於テ戰死

竹腰吉治君（學生主事補）
陸軍歩兵少佐　滋賀縣坂田郡大原村小田三一〇　昭和十四年二月十八日北支河南省常營集附近ニ於テ戰死

八幡久治郎君（專二商一在學）
陸軍歩兵伍長　大阪市東區備後町三ノ二　昭和十四年四月一日江蘇省武進縣依東鄉朱家灣ニ於テ戰死

伊藤富郎君（昭和十一專一商）
陸南軍歩兵上等兵　岐阜縣惠那郡陶町猿爪一〇九　昭和十四年五月五日湖北省隨縣呂家砦ニ於テ戰死

安田五郎君（關甲昭八卒）
陸軍歩兵上等兵　兵庫縣出石郡出石町田結庄七一　昭和十四年五月十五日河北省堺山東飛地大葛寨ニ於テ戰死

梶山清君（關甲昭三卒）
陸軍歩兵中尉　大阪府豐能郡豐津村榎坂九一二　昭和十四年六月一日江蘇省武進縣陳村ニ於テ戰死

奥山營治君（法文學部法二在學）
陸軍歩兵上等兵　大阪市東淀川區長柄西通一ノ三二　昭和十四年六月六日江蘇省宜興縣上浮橋ニ於テ戰死

樋口德造君（專商一在學）
陸軍歩兵上等兵　大阪市西成區千本通一ノ三五　昭和十四年六月十三日漢口野戰病院ニ於テ戰歿

田尻俊二君（昭和十一年大法）
陸軍歩兵中尉　兵庫縣加古郡高砂町東濱町一二五四　昭和十四年六月二十八日北支保定東方猪龍河右岸蓮子口ニ於テ戰死

肥田大正次郎君（昭和十三專二法）
陸軍輜重兵伍長　大阪府泉北郡大津町字多九三七ノ二　昭和十四年六月二十九日山西省張店鎮ニ於テ戰死

關岡利和君（專二法二在學）
陸軍歩兵軍曹　大阪市東區南玉造町一〇　昭和十四年七月二十六日北支山西省晉城第一野戰病院ニ於テ戰歿

中村義郎君　昭和十一專一商）
陸軍歩兵曹長　山口縣厚狹郡厚狹町鴨庄一〇七四　昭和十四年七月三十日滿蒙國境ハルハ河畔ニ於テ戰死

鶴原幸雄君（昭和一〇大政）
陸軍歩兵少尉　兵庫縣揖保郡網干町濱田五五八　昭和十四年八月四日北支河北省徐水縣大王莊ニ於テ戰死

西田元亮君（昭和一三大政）
陸軍歩兵上等兵　岸和田市五軒家町三〇二　昭和十四年八月五日北滿三江省病院ニテ戰歿

田淵武治君（昭和一二專二法）
陸軍砲兵上等兵　大阪市東區道修町四ノ一一　昭和十四年八月二十一日滿蒙國境ノモンハンニ於テ戰死

關根榮一郎君（昭和一一專二法）
陸軍歩兵一等兵　栃木縣足利郡山前村大前一〇一四　昭和十四年八月二十五日滿洲國興安北省ノロ高地ニ於テ戰死

忠靈塔碑銘

枝葉布形而根本維一手足異用而頭首維令以衆謀一以末奉本是物之則也平居無事則判而執業治產有事則齊以致身率上是民之道也我大學立教育才既半於百年諸生之卒其業者雖課殊部別各以膺公私之務而有戛之時至誠奉公勇躍赴難其志固一矣丁丑之秋西征師興也學窓投筆而應命者有之公私拋業而從軍者有之以戰鬪于硝煙彈雨之間于峻嶺狂濤之場精誠宏節最可欽仰而至其殞命於此際者則義烈勇壯赫奕照徹於人之心肝也於是學中之諸生凜然興敬情之所會克建此碑以弔英魂自創業以至今日師生若干又將及後來也嗚呼是可以扶植　皇道矜式士氣也爾乃銘曰

若微斯人　何維道德　斯道若微　何植那國　千里學園
貞石是勒　大節巍焉　萬年貽則

昭和十四年七月

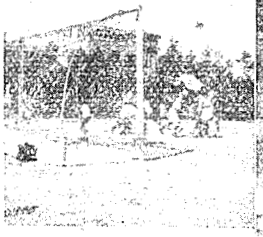
關西大學學長　正三位勳二等　法學博士　神戸正雄撰
關西大學講師　泊園書院主　從七位勳六等功五級　藤澤章書

大學祭點描

（上）校旗を先頭に歩武堂々分列式行進

（下右）合同體操

（下左）對神戸商大ホッケー戰



☆　☆　☆

第十四回　大學祭

聖戰下三年目の大學祭は、秋色濃やかな絶好の快晴に惠まれて千里山學舍運動場において自肅盛大に擧行された。午前九時体育大會に先立ち第十四回大學祭式典が大會執行委員長神戸學長他教職員列席の下に約一千名の學生參加して嚴肅にとり行はれた。先づ學生の點呼報告についで校旗奉迎、國歌合唱の裡に國旗は高々と揭揚されて、秋空に飜翔とはためく。皇城遙拜、戰歿將士の英靈に對し敬弔並に皇軍出征將士の武運長久祈願の默禱を捧げ、ついで神戸大會執行委員長の自肅大學祭についての訓辭ありて參加學生の分列行進に入り、校旗を先頭に學部、豫科、專門部第一部、第二部の順に大行進を起し、終つて學歌「自然の秀麗」を齊唱して式典を終了した。

これより体育大會に移り、トラック、フイルドは合同体操、百米豫選を皮切りに二百、四百、二千米豫選決勝、走高飛、砲丸投、使運競爭、走巾飛、圓盤投、學年對抗リレー、三學友會對抗リレー、關甲二商對抗リレーの豫選決勝やら、武裝競爭等次から次と展開され、野試台、劍舞には場内一ぱいに若人の溌氣を躍動させ、瓶釣競走、飴食競走、借物競走、袋飛競走にスタンドに溢れる觀衆を喜ばせ、折から航空部學生操縱の大學祭祝賀飛行のグランド上を亂舞する頃は大學祭氣分は最高潮に達した。また正午行はれた秋季リーグ戰の神戸商大とのホッケー戰、アメリカンフットボール、相撲、庭球、籠球、フエンシング試合とプログラムは進められ、心ゆくまで青春を謳歌して夕やみせまる四時半名殘惜くも大會を終了した。

學生彙報

法律學會

戰時體制强化に伴ふ經濟立法は實に夥しいものがある。法科生の負荷は愈々大なるを痛感す。吾法律學會は會員擧つて之等多彩な法規に注意を怠らず、鋭意研鑽に努めてゐる。

去る十月十三日午後三時より於學友會館野村先生御研究に係る「合資會社の有限責任社員に就いて」有意義なる御講演を拜聽、吾等會員一同合資會社の有限責任社員に就いての知識を非常に深める所があつた。斯くして吾會員の不斷の研究は學的質の向上を來しつゝあつたのである。果せるかな、その效空からず本年度高文に、法覺、吳兩君の合格者を出し吾學會の爲め萬丈の氣を吐いたのである。吾會員一同勝つて兜の緒を締め益々緊張の決意を固めてゐる。

因に會員の親睦を計る爲め、去る暑休七月二十三日中谷會長先生の御參加を得比叡山にハイキングを擧行、一同意氣軒昂、大いに心身鍛錬の實を擧げ、北斗漸〻中天に至る頃歸路に就く。次いで來る十月十七日神宮祭當日には千里山一箕面コースにハイキングを試みる豫定。

斯くて吾會員一同心身を錬磨あ以て次代の負荷者としての要求に答へんとしてゐる。

東亞研究會

十月廿四日　卅九教室に於て先輩石田氏より二ヶ月餘に亘る臺灣及び南洋方面の見學談を拜聽した。

十月廿九日　體位向上の秋！楽しい親睦會に友情を温めるも大いに意義あることとて、古都奈良の秋色を訪ねた。春日野、燈籠に名高き春日の社頭、鹿は人の秋をひき、そゞろに王朝の昔を偲ばしめた。參加者先輩石田、高橋兩兄初め十五名。

十月卅一日　第五回討論會を卅九教室に於て開催す。布野君「蒙疆政治狀態と其重要性について」、松田君「滿洲移民」について論じ盛會であつた。

商學會

久しくに學報に報告しなかつたが怠けてゐたのではない、寧ろ昨年以上に頑張つて來たと云つても敢て過言ではないことを信ずる。

吾々としては報告する程のことでもないと、謙讓の美德を發揮して沈默を守つてゐた次第であるが、しかしその折角の美德も過ぎては、學外に居られる先輩諸兄より怠けてゐるんだらうと云ふ惡德の方へ解釋される惧もあるので、以下之までに行つた重なる事業を擧げて近況報告をして責を果す。

五月十三日　春季總會を天五たから亭にて開催す。新入會員及び特別會員田中山村兩先輩の參加ありなか〳〵の盛會であつた。

五月二十八日　午前九時より大阪中央卸賣市場を見學す。幸ひ同市場魚會社に勤務の本學先輩西村剛氏の懇切なる御説明を得、會員一同新知識を滿喫して午後一時解散す。

六月一日　會員の希望により英文タイプの實習を始む、これは會の事業として將來も繼續する豫定なり。實習室として英文科の教室を項戴す、タイプは今のところ一臺なり。

六月十六日　「商學の本質」なる題目にて商三會員壽福君の研究報告及び討論の會を開催す。

六月二十七日　「商學成立の基礎概念」なる題目にて、商二會員前川君の研究報告及び討論の會を開催す。

七月六日　「遮斷店組織」なる題目の下に本會々長加藤金次郎教授の研究發表會を學友會館集會室にて開催す。

十月二十一日　「廣告常識について」なる題目にて商二會員山田君の研究報告及び討論の會を開催す。

十一月十日　本學先輩大鐵百貨店人事課長加藤昌秀氏より「給料及び就職について」なる題目の下に氏の實際的立場より觀たる研究發表會を學友會館集會室にて開催す。引續き次年度本會役員の選擧を行ひ左の役員決定を見たり。

幹事長　野口太二郎君（商二）
會計　大野憲三君（〃）
幹事　山田一男君（〃）
幹事　三枝森男君（〃）
幹事　神代良信君（〃）
會計　植野郁太君（〃）

商業研究會

隙行く駒の足速くして、春風秋風送り迎へて當研究會も四年の歴史を有する樣になりその間春の夜の夢の樣である。

十月七日　昭和十五年度新幹事の任命並びに事務引繼を行つた。新幹事長荒木敬三君の下に新活動に乗り出す樂になつた。猶當日は森川會長先生外出席者二十一名賀詞にして有意義な會を行ひ、新幹事の前途を祝福しつゝ閉會した。

十月十三日　討論會を開催、此の日は永井長二君の滿洲及北支那旅行の報告をやつてもらつた。學生の見た大陸事情、

特に綜合的觀察及新認識を我々に傳授され、これから大陸に勇飛せんとする若人の大いなる參考になつた。そして盛會裡に閉會した。

機關雜誌第七號を此學期中に發行する豫定。

學術研究會聯盟（二部）

法理研究會、商專會、經友會の三研究會間に於いては去る十月六日（金）以來各四名宛の代表者を出して懇談を重ねた結果、茲に聯盟を結成した。左に宣言、趣意書、要綱を記し以て聯盟の精神を闡明する。尙十一月中に聯盟結成式が催される筈である。

一、宣　言

現下の狂亂怒濤する現實の舞臺面に於いて、最も大きくクローズ・アップされる群像の一つは確かに『悲痛な大學苦悶』の姿である。曰く、知育の偏重、德育の稀薄、理論と實踐との相克、不生產的等々の問題を以つて、輿論は彼大學を鞭打ちつゝある。輿論の提起する之等の問題及びその前提には正當性を疑ふべきものが多分にあり得るであらう。だが疑ひ得ないものが確かに一つある。吾々の根源的盲目と云ふことがそれである。人間社會に於ける絕大なる悲劇が、國家や個人の根源的盲目に由來すると同じく、現下に於ける大學の激しい苦悶は、本質的に學徒の根源的盲目に淵源してゐるのである。吾々は長い間先輩の築き上げた傳統の中に勞せずして慰ひつゝあつた。吾々は是迄問題の核心にひそみ問題を動かす根本に質を探ることとなしに、その場限りの解答のみ求めつゝあつた。確かに吾々學徒の修學過程に於いて、一應知識はレディーメード的に攝取されるであらう。だが斯る知識が吾々の中に於いて血となり肉となつて生きんがためには、聰明なる知性の働きが之に加はらねばならない吾々の知性によつて支へられざる知識は死せる形骸でしかあり得ず、吾々は根源的盲目のまゝに止まらざるを得ない。眞に憂へらるべきものは、知性の過量に非らずして實に知性の貧困であり、人間の根源的盲目なのである。

『須らく聰明なる知性によつて汝の根源的盲目性を開眼せよ！』

之吾々が學聯の名に於いて、現下の學徒に向つて發する警告である。

願はくば親愛なる三千學徒諸兄よ！

兄等の心の眼を此の宣言の上に靜かに落されよ！

昭和十四年十月廿八日

關西大學々術研究聯盟

常任理事　野尻　義正（法）

仝　小寺　辰雄（商）

仝　新堀鐵麻治（經）

一、學聯創立の趣意

我が關西大學は今を去る五十有餘年前難波西部の一寺院にフランス法を講ずべく開校した關西法律學校に創まる。爾來法律が常に新しき文化のピオニールであり拓士であつた如く、關大は民衆が現實を謳歌し、現實の歡喜の中に浸りつゝあるとき、既に其處に必然的に來るべき矛盾を見出し「民衆醒めよ！」と絕叫した時代の先驅であつた。まこと、吾々の先人が低俗なる民衆の無理解、酷遇と闘ひつつ狂亂する感激の嵐の中に歷史を創り來つた事實を、血の騷ぐ思ひなしに回想することは出來ないであらう。

だが吾々の過去への反省は單なる詠嘆的な回顧に止まつてはならない。先輩の體驗を吾々の體驗とし、その歷史を吾々の歷史を吾の身に經ふて、遙かなる未來への展開に問ふものでなければならぬ。傳統に生き、傳統を創りゆく者の常として、吾々は好むと好まざるとに拘らず、目前に啓かれた之等の課題から自己逃避をなすことは許されないのである。そして、吾々の現實を正視するとき果して我々は自己の歷史的任務なりとするものを適確に履して來たと言へるであらうか否かを疑はざるを得ない。

吾々は長い間、實に長い間を既成の傳統的惰性の中に深々と眠り續けて醒むるを知らなかつた。聰明なるべき吾々の知性は推く積まれた死せる知識の形骸と、目も眩むばかりの現實世界の激動を前にして、徒らに盲目を嘆たざるを得なかつた。しかも路傍に咲く野花の如くおのれ自身の小さな美を守つて、其處に消えゆくやうな運命に甘えることは、吾々には許されざることである。

近時我が學園に於いて、踵を接して學術研究團體が結成された事實を吾々は目擊した。嚆に經友會、國漢文學會、續いて商專會、法理研究會、英文學會等が結成され、それと同時に我が關大が內々に無限の發展力を藏しつゝ、限りなく高き文化を創み出す可能性をもつた學園でなければならぬとの自覺が、暴風的に全學園に昂まりゆく事實を吾々は身近に感得した。宜なる哉。關大は茲にその本來の生々しい創造的精神を盛り返し、やがて訪れるべき新しき文化の黎明を告げる序曲を奏で始めたのである。だが此の序曲を眞に生かすためには有能なるタクターが生れねばならぬ。吾々は斯る要求に應ふべく之等學術團體の間に『聯盟』を結成した。吾々は之によつて、春を待佗びる冬籠のやうな生彩のない沈滯の世界から一歩踏み出し、學園精神を無限の高みにまで引換げることを約束されたと確信的に言ひ得る。宮學のとめどなき抑壓と

輿論の絶む間なき酷評とにおのれを小さくしてちぢこまり、僅かにスポーツによつて餘喘を保ち來つた吾々の之迄の無氣力さを思ひ合はして見よ！　今こそ吾々が此の一年間に不動の確信を以て歩み來つた道程の建設的意義を聲を大にして立張し得るであらう。

以上は學聯が何故に成立せねばならなかつたかを略説したのであるが、更に聯盟成立の目的に觸れる必要があるであらう。

聯盟は『關西大學建學の精神に則り、各研究會の特性を生かしつゝ、之が發展助長を斯するため緊密なる連絡を圖るを以て目的とす』る。即ち聯盟はその現質の任務を、學術團體相互間の緊密なる『連絡』を圖ることに謹ましく限定してゐるのである。聯盟は決して各學術團體を高所より押へ夫々の固有なる特性を抹消しその自由なる發展を瓶塞するに至らんとするものではない。學術團體の建實なる發展を有効に助成すると共に精神的な融合協調を可能ならしむる楔たらんとするものである。人或は學聯が特定の功利的方便の目的とされることを危惧するかも知れない。だが之程學聯に對する大なる誤解は有り得ない。學聯は遙かに高遠な眞實を目指してゐるのである。吾々の把持する理念はその價値の高さに於いて、正しく精神界の貴族たるに價する品位と實質とを持つと言ふに憚らぬであらう。

曾て岩崎教授は『本學五十年間の發展の跡を辿つて見るとき、それは算術級數的な發達に非ずして、幾何級數的なそれであり、しかも之迄の所は僅かに關大發展の途上に於ける一里塚に過ぎないと言はれた。果してしからんか、斯る一里塚の上に更に一里を進めることは、吾々の自ら課する光榮ある責務であると言はなければならない。學聯の誕生は正しく此の新しき一里塚への全學園的な進軍を意味する。そして歴史は吾々にかく自負することを許すであらう。

昭和十四年十月廿八日

學聯創立委員會

一、聯盟の構成—要綱

名稱　關西大學學術研究會聯盟

略稱——學聯と稱す

目的　聯盟は關西大學建學の精神に則り各研究會の特性を生かしつゝ、之が發展助長を期するため、緊密なる連絡を圖るを以て目的とす

組織　(イ)聯盟に理事會並に協議會を設く

(ロ)理事會は聯盟加入團體より選出せる代表(各四名)を以て構成す

協議會は聯盟加入團體の委員を以て構成す

(ハ)聯盟に常任理事三名を置く

常任理事は聯盟の事務を統理し聯盟を代表す

前項の權限を行使するに付き常任理事相互間に意見の懸隔あるときは、二名の合意を以て足る

一、聯盟の役員(理事)

法理研究會代表

常任理事　野尻義正

理事　金昌權

同　加藤市郎

同　渡邊一郎

商業專門研究會代表

常任理事　小寺辰雄

理事　耕斗二

同　栢木菊一

同　米花實

經友會代表

常任理事　新堀鑛麻治

理事　石井日出男

同　古田久雄

同　藤井吉郎

民俗學會

我が民俗學會は創立以來堅實なる發達を續け、十月十四日午後三時半より江馬河村兩指導先生及び田邊、武田、西岡外有志出席の下に第三次例會を行ふ。

發表題名

備中津藤「八重山」の傳説外二、三

江馬先生

いはひ棒、どうろくじん

先づ學生會員側より各自の蒐集せる二、三の傳説並に俗風を發表したるものに對する江馬、河村兩先生の此等に對する批判及び學生の批判質問を行ひたる後江馬先生より飛騨高山、伊那地方にては現今にても行はれて居り、長野縣上水内郡中郷村大字牟禮地方にて蒐集せられたるものにして正月十五日に當地方にて祭る郷土藝術色豐かなる郷土信仰玩具「どうろくじん」(道祖神)及び人類繁榮を祈る「いはひ棒」等に付その現品を示されつつこの信仰玩具の由來變遷に付て説明せられ全會員大いに啓示せられる所あり、午後五時過ぎ有意義なる會を閉ぢる。

十月三十一日(火曜日)　第四次例會を行ひ、民俗學會も漸次學生間に認められ會を重ねるに從つて出席者の増加する事は喜ばしいことである。

發表題名

備中傳説の續き

江馬先生「七五三の祝ひ」

先づ西岡君より鬼の手形岩、坊主岩、觀音堂の傳説等の發表あり、話に對する批判は次から次へと時には峻嚴そのものとなり、時には人情厚く情緒纏綿なる物語りにこの話を終る。

現代多くの人々は此行事を行つてもその由來を知らない。七五三はこの最適例であり、現今この由來を知つてゐる人々は極めて少ない。此所にも我々の常識を養ふ爲にも、又興味としても民俗學が極めて必要であると思ふ。云ふ迄もなく民族學は各地方色を有する民間の俗習を研究する學問にして、その研究範圍極めて廣く、その研究資料としては各地方の俗習を知る事を要し、此が目的を達成せしめんが爲には同好並びに各地方風俗發表研究の熱意ある人々の出席を切に希望する次第である。

參　陵　會

◎七月九日（日）夏期特別例會を東京方面に擧行す。大阪築港に集ひし一行十三名は正午波靜かな築港を箱根丸デツキ上の人となる。日本晴の空をうつして鏡の如き海面の色漂ふ浪より生るる風は船窓にそよぎつつげに肌涼しく、デツキ上に居る時全く夏知らずの境！會員一同四方山話に花を咲し、太平洋の荒波も何のその、無事十日午後三時横濱に着く一行は早速、多摩御陵へと第一のスタートを切つたのである。

行程左の如し。

十日　多摩御陵參拜（軍人會館に宿泊）

十一日　宮城遙拜、新宿御苑拜觀、明治神宮參拜、議事堂見學、靖國神社參拜（軍人會館に宿泊）

十二日　大阪驛夕刻着　解散

參加者　十三名

◎十月十五日　第三次第十一回例會を奈良、大和田原方面に擧行す。午前九時上六に集合せる一行十一名は十五分發電車にて一路奈良へと向ふ。此の日天氣晴朗にして正しく〝天高く馬肥ゆるの候〟遥り行く黄金波打つ田園風景を眺めながら約四十分にて油坂停留所につく、此れより紅葉色づきかけたる奈良市街を横斷し新薬師寺前を通過、石切峠地獄谷を左右に觀て光仁天皇陵へと向ふ、當日は日曜の事とて非常な人出であつた。

本日參拜陵左の如し。

第九代　開化天皇春日率川上陵

第四十九代　光仁天皇田原東陵

參加者　平尾會長先生、河村信一先生以下十一名

基督教青年會（二部）

動亂は動亂を生んで世人は眞理の存在が奈邊かと憂へて居る。然し乍ら眞理は永遠に眞理で微動だもしないのである。大いなる審判の日に偽りの權衡は神に悪まれ義しき砝碼は欣ばれるのである。實に義は國を高くし罪は民を辱かしめるのである。

十月は例會を十三日に午後八時より三十九號教室にて開いた。私達は祈つた。興亞の大事業を眞に神の聖旨に從つて行ける樣に聖め御啓導あらん事を、應召中の二學友の上に愛の泉の御惠をあらせ給へと祈り！さうだ祈りを馬鹿にする者は悪魔に馬鹿にされるであらう。

國民精神總動員も眞だにあらば良いのである。『眞だに』之こそ祈心に外ないと信じ奉る。

二十日　ロツクーガーデンにハイキングし谷間に秋の創造の御手を讃美し祈る更に一同は此の日の意義ある護國の英靈を念ひ深めて遺族の方々に御恩寵豊かならん事を靜かに心に祈つた。

十一月は二日夜中之島公會堂に賀川豊彦先生の講演會あり、それに準備した例會は十五日午後八時から三十九號教室にてなす豫定である。『元始に神天地を創造たまへり』創世記第一章第一節から『願はくは主イエスの恩惠なんぢら凡ての者と偕にあらんことを』。默示錄の終り迄聖書は全體として神の啓示である。我々基督教青年會は闊大に學ぶ知識圏に信仰を同じふする者のアソシエーションである來りて聖徒の乏しきを賑はれん事を。（法三　橋詰）

向　上　會（二部經二）

吾が經濟科二年のクラス會が級友相互の親睦と研究向上との目的を以て、經一向上會なる名稱の下に組織されて以來既に一年有半、過去の輝やかしき實績を背後に今やその名も經二向上會と改稱し、確固たる基礎の上に委員長以下會員の絶えざる努力と協力とに依りてその團結は愈々固く、その發展は益々昌なるものあり、而して他學内に於いても、吾が經二向上會の存在は稀に見る内容充實せるクラス會として斷然誇示するに足るものがある。之偏へに全會員の總親和、總努力が數々の意義ある事業に反映したる結果であるといふ可きであらう。爰に本年以降現在迄での諸事業を記錄し、是を回顧すると共に今後に於ける全員の一層の協力を切望して已まない次第である。

五月十六日　クラス會　二五教室

新學年度委員任命、事業打合せ

六月三日　クラス會　天六北進

六月廿四日　クラス委員會　二五教室

七月一一日　クラス會　二五教室

休暇中の事業打合せ

アルバム作成の件

七月十六日　ハイキング　仁川溪谷より寶塚へ

八月十三日　海水浴　香櫨園

九月九日　クラス委員會　天六北進

九月廿日　クラス會　天五光

十月八日　ハイキング　六甲溪谷

スポーツ關大……

庭球部

大阪計量テニスクラブ主催第六回全日本軟式庭球大會は天高爽涼の十月八日南海高野線中百舌鳥コートで擧行。

本學小島君驍頭より完璧の當りを示し三回戰迄無名戰士の追擊を輕く卻け愈々準々決勝戰に宿敵第二シードの須々木組に對す。先づレシーヴサイドで幸先よくゲーム先取し、ミツドルプレーシングに一—一とされたが續いてゲームを二—一二—二と先行せしも相手も中國のナンバーワン、遂に二—三とされ三—三とセットオールに追ひしも、三—四、三—五とシーソゲームを演じ、武運拙く遂に遼來の古豪に名を成さしめた。

一回戰

森小島（關大）四—〇倉尾（橋本倶）

二回戰

森小島（關大）四—〇宮岡（中村信）

三回戰

森小島（關大）四—一池田（西寺倶）

準々決戰

森小島（關大）三—五須々木（三宅山）

千里山弓道部

十月八日　於本學道場

對大阪外語試合（六人立）

關大豫科　60——45　大阪外語

十月十五日　於關大道場

對同志社大學試合（八人立）

同　大　101——79　本　學

十月廿日　於高槻道場

對大阪高槻試合（六人立）

高　槻　79——74　本　學

十月廿九日　於本學道場

第二回對大阪商大豫科定期戰（八人立）

關大豫科　80——77　商大豫科

馬術部（千里山）

十月二十二日　第七回北陸馬術競技大會が金澤市にて開催、本學より齊藤、岡村加藤、森の四選手參加、關大馬術の妙技良く他を壓倒第二位を獲得す。

十月二十九日　第三回關西代表軍對關西O・B軍對抗馬術戰が仁川にて擧行本學より廣谷主將、安藤副將之に出場成績左の如し。

個人第二位　廣谷、朝陽號　減點-0

十一月一日　第一回關西代表軍對全滿鐵軍對抗馬術競技戰を仁川にて開催、本學より同じく廣谷、安藤出場、成績左の通

個人優勝　廣谷　富士號　減點-0

個人第二位安藤　松島號　減點-2

射擊部（專門部一部）

第十回明治神宮國民体育大會參加

大會中射擊演技部は十一月二、三の兩日陸軍大久保射場にて開かれ、この日射場は朝來薄ら寒ささへ覺える曇空にも拘はらず、畏くも秩父總裁宮殿下の台臨を仰ぎ、選手一同射擊報國の熱意に燃え、高專大學、府縣代表、一般代表と熱戰をなし、關大選兒のため氣を吐いた。

全國大學專門學校　三百米參加三十六校

第八位　關大專門部　五六七点

第十四位　關西大學　五〇三点

尙明治神宮國民体育大會第一回の參加出場に就き彌榮獲得をば惜しくも失し明年度こそはと一層緊張す。

○第三回對大阪外語戰

拾一月拾二日城南射擊場に於て第三回對大阪外語定期戰を擧行す。我等選手一同は東京遠征での疲れも何のその！大いに頑張り「二一九点一の差にて大勝す。

戰績次の通り

第一回戰

關　專二四三——一〇九大阪外語

第二回戰

關　專二二七——一四二大阪外語

昭和十五年度幹部左記の如く決定せり

主　將　安藤正夫

マネージャー　木村一郎

會　計　正木俊一

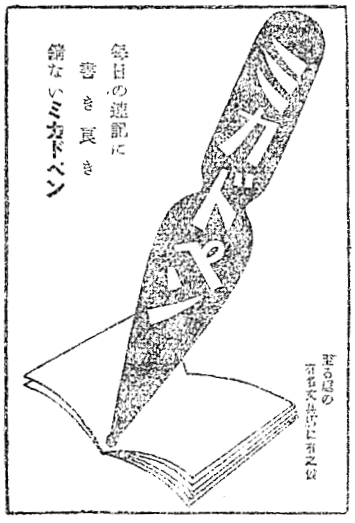
彈　藥　池田信一

委　員　波多野義一

ホッケー部

春季關西學生リーグ戰に三戰二勝一引分の成績を以て優勝したる我ホッケー部は其後汗と油の猛練習の結果十月八、十五、二十二の三日に行はれた秋季リーグ戰に三戰三勝の好成績を以て堂々優勝、こゝに輝く四連覇を成し遂げた。

第一回　對三高戰（十月八日　於京大）



關大 4（22—12）3 三高

第二回 對京大戰（十月十五日於千里山）

關大 2（11—00）0 京大

第三回對 神戸商大戰

（十月二十二日 於千里山）

關大 8（35—00）0 神商大

第一回全日本學生ホッケー選手權大會

秋季リーグに於て全勝の記錄を以て優勝したる吾がホッケー部は全日本學生選手權大會に關西代表として出場し、優勝戰に於て關東代表、慶應大學との對戰に破れ全日本第二位となる。

十一月三日（於東京月島オリンピック・グラウンド）

慶應 9（54—00）0 關大

邊中	木本	井木木	野沼
田久	本山	藤村茂	天飯
F.W		H.B	F.B

下山 G.K

十月二十八日 對神戸外人戰

（於神戸東遊園地）

關大 5（23—01）1 神戸外人

去る十月廿日より三日間厚生省主催の下に行はれたる神宮大會に關西代表として本學より主將村木君（H・B）天野君（F・B）山本君（F・W）の三名が選拔されて力戰す。

フエンシング部

關西團体リーグ戰の火蓋切らる

十月四日 對大商（フルーレ）此日溝淵好調にして堂々四戰四勝の常勝記錄を出し、木戸又三勝一敗七割五分の好成績を上げ、宿敵大商を我が軍門に下すのに貢獻し、八尾一勝して貴重なポイントを拾ひ、木村不調に喘ぎつゝも突數に氣を吐き、結局八勝八敗の同点となりしも、全軍の士氣遂に突數勝（十一本）となつて現はれ、先づ大商を破つて幸ひ先き良きスタートを切つた。

十月六日 對同大（フルーレ）全日本選手權大會出場の望みを此一戰に賭けた我チームは意氣軒昂同大を向ふに廻して接戰又接戰は木戸三勝一敗、八尾二勝二敗によつて勝星五点を上げ氣勢大いに上りしも、前日の常勝者溝淵不調にして一勝を得たのみ、續く木村も一勝三敗の不振に終り、遂に總勝星七点九對七で破れ去つた。然し兩軍の突數の差僅か九本であつたのは如何に我チームが善戰力闘したかを物語つてゐる。

十月八日 對同大（サベール） 此一戰こそは團体サーベルの優勝戰であり、戰はざる前既に會場は緊張と興奮の坩堝に投げ込まれてゐた。至寶木戸秘術を盡くしての鋭鋒は刄向ふ敵四人を撫斬り四戰四勝の輝しい金字塔を築き主將の貫祿を示せば、溝淵又好戰して二勝二敗の成績を收め友軍の爲万丈の氣を吐き、山口、木村共に一勝して總勝數八点を上げ宿敵同大と八對八の引分を演じたのである。

殊に木戸對中谷の一戰は規定タイム十五分を遙に超過して二十分四九秒の熱戰となり、闘將木戸遂に最後の止めを刺して氣を吐き、山口對西田も延長戰に入り死闘の結果山口に凱歌揚りし等幾多の好試合を織り込みし此の一戰に突數の差僅か八本で破れて選手一同無念の涙に濡れたのである。

全關西フルーレ個人選手權大會

十月八日 第二回戰

木村（關大） 5—3 早川（大商）

木戸（關大） 5—4 石西（大商）

三島（大商） 5—3 八尾（關大）

谷木（關大） 5—4 中谷（同大）

新鋭谷木全日本第一位の中谷を破つて氣を吐く

溝淵（關大） 5—1 高岡（同大）

清水（同大） 5—4 田中（關大O・B）

關大木戸二戰二勝（十點）谷木一勝一敗（九点）で無事第一次豫選パス

同点者再試合

古家（同大） 5—0 溝淵（關大）

八尾（關大） 5—4 木村（關大）

決勝戰

八尾（關大） 6—2 古家（同大）

八尾悠々古家を破り第一次豫選をパス

第二次豫選（フルーレ）十一月十五日

木戸（關大） 5—2 戸早（大商）

木戸（關大） 5—2 三島（大商）

主將木戸悠々第二次豫選パス

三島（大商） 5—2 八尾（關大）

戸早（大商） 5—2 八尾（關大）

無念闘士八尾落つ

山西（同大） 5—3 神木（關大）

福田（協會） 5—3 神木（關大）

新鋭神木も落つ

コルーレ決勝戰

木戸（關大） 5—1 福田（協會）

山西（關大） 5—2 木戸（關大）

三島（大商） 5—4 木戸（關大）

闘將木戸一勝二敗にて全關西第三位に喰入り、併せて全日本學生選手權大會の出場權を獲得す。

エッペ豫選

木戸、八尾、神木、三選手出場善戰するも遂に豫選を通過せず

濃い鮮明なインキです
書き滑えのするインキです
万年筆用
キング
ナグワ

名簿發行について

校友會員名簿は例年十二月に發行して居りましたが、昭和十五年度用は名簿の組織を改めましたので發行が遲れ、目下編纂中で、明年二月下旬に刊行の豫定であります。新名簿は各位の御協力を俟つて正確を期したく、各位の住所、職業等の御移動もお手數乍ら御一報下さらば甚だ幸甚です。

尚昭和十四年度校友會費未納の方は振替貯金を御利用御拂み下さい。

關西大學校友會

振替口座大阪五五五九四番

校友會會則

第一章 總則

第一條 本會ハ關西大學校友會ト稱ス

第二條 本會ハ會員相互ノ交誼ヲ厚クシ會員ト關西大學トノ關係ヲ密ニシ關西大學ノ發展ヲ計ルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ其目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、學報ノ配付

二、會員名簿ノ發行

三、本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項

第四條 本會ハ本部ヲ關西大學本部内ニ置キ必要ノ地ニ設置ス

第二章 會員

第五條 左ノ資格ヲ有スル者ヲ會員トス

一、關西大學、元關西法學校卒業者

二、關西大學役員及教職員

三、推薦校友

四、附屬關西甲種商業及第二商業學校職員

五、關西大學元役員元教職員ニシテ評議員會ニテ推薦セラレタル者

第六條 會員ハ會費トシテ毎年六月末日迄ニ金參圓ヲ納ムルモノトス

但シ一時ニ五拾圓納入シタル者ハ百年分ノ會費ヲ納セス

第七條 會員ニシテ本會ノ趣旨ヲ解セスル行爲アリタル者ハ總會ノ議決ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章 役員

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名　副會長 一名

常議員 三十名　評議員 若干名

第九條 會長ニハ關西大學學長ヲ推ス

第十條 副會長ハ常議員會ニテ推薦ス其任期ハ二ケ年トス

第十一條 評議員中百名ハ總會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ選擧ス其任期ハ二ケ年トス

第十二條 支部ノ役員ハ其任期中ハ職務上評議員タルモノトス

但シ其支部ニ役員二名以上アル時ハ代表者之ニ當ル

第十三條 常議員ハ評議員會ニテ京阪神在住評議員中ヨリ互選ニテ之ヲ定ム其任期ハ二ケ年トス

第十四條 會長ハ會務ヲ統攝シ總會ニ於テ議長トナル

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十五條 常議員ハ會務ヲ處理ス

常議員ハ互選ヲ以テ五名ノ常任幹事ヲ置ク

第十六條 評議員ハ左ノ會務ヲ審議ス

一、常議員選擧ニ關スル事項

二、會則變更ニ關スル事項

三、會則第五條第五項ノ會員推薦ニ關スル事項

四、其他重要ナル事項

第四章 總會

第十七條 定時總會ハ毎年一回大阪ニ於テ之ヲ行フ

臨時總會ハ常議員會ニテ必要ト認メタルトキ開催スルコトヲ得

第十八條 左ノ事項ハ之ヲ定時總會ニ提出シ其承認ヲ受クルモノトス

一、前年度收支決算

二、財産目錄

三、事業報告

第十九條 總會ノ決議ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第五章 會計

第二十條 本會ノ經費ハ會費其他ノ諸收入ヲ以テ之ニ充ツ

第廿一條 本會ニ基本財産ヲ設定シ第六條但書ニ依ル一時納入金數並ニ基本財産ノ造成ヲ目的トスル寄附金品ヲ以テ之ニ充ツ

第廿二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月末日ヲ以テ終ル

第六章 支部

第廿三條 本會支部ハ支部規則會員ノ住所氏名及職業ヲ具シテ本會本部ニ報告シ常議員會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

前項ニ異動生シタル場合ハ本會本部ニ報告スルモノトス

第廿四條 本會支部ニハ一定ノ事務所ヲ設ケ役員ヲ置クモノトス

附則

第廿五條 本會則ノ變更ハ評議員ノ過半數ノ同意及總會出席者三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第廿六條 本會則ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ實施ス（昭和十三年二月十四日改正・昭和十四年十一月五日改正）

大正十一年六月十五日創刊
昭和十四年十一月十日印刷
昭和十四年十一月十五日發行

編輯兼發行人　大阪市東淀川區長柄中通二丁目十二番地　神屋敷民藏

印刷所　大阪市北區堂島上三丁目十五番地　谷口印刷所

發行所　大阪市東淀川區長柄中通二丁目十二番地　關西大學學報局

天六學舍　大阪市東淀川區長柄中通

千里山學舍　大阪市外千里山

本部 電話 淀川 一一〇三九
專門部 一一五〇
編輯 吹田 一二三

關西大學教授　磯部喜一著

中小商工業の組合運動

四六判　二一七頁
定價・壹圓
送料・拾錢

新刊

著者序文より―日支事變を契機とした戰時經濟の招來以後、吾々は幾多の新しい經濟問題に遭遇してゐる。組合制度もその一つであるが、實に組合制度は今日わが國民經濟機構の樞軸たらしめられてゐるのである。こゝに於いて、吾々は組合運動の本質を知らないでは、今日のわが國民經濟を談ずる資格をもたない。組合運動の理解に當つて困難がある。蓋し組合制度は一つでなく、多數に上つてゐる。しかも現行多數の組合制度は戰時經濟機構として新に創設されたのでなく、殆ど大半が既存し、今日重用乃至轉用されたのである。それだけに、それぞれがもつ過去及び傳統を知らねばならない。

著者は昭和十一年の秋『工業組合論』を上梓したが、この前後から他にも數種の組合研究書乃至組合解說書が刊行された。ただ遺憾なことに、各種の組合制度を關聯的に取扱つた書物は一冊も見出せないのである。著者が再び組合論のため筆をとつた所以は、この缺陷を補ふにあつた。本書は、明治以來での最古の組合制度である準則組合から、今日の組合運動の花形である工業組合・貿易組合及び商業組合まで、産業關係の各種組合制度を關聯的に考察した。もとより、この考察に當り、自由經濟・統制經濟乃至戰時經濟に於ける社會的重要性の變遷を指摘する用意を怠らなかつた。最後に、本文校正中に工業組合制度の改正があつた爲、できるだけ本文の訂補に力め、なほ附章を追加してその完璧を期することにした。

好評

磯部喜一著

工業組合論

菊判　七五〇頁
定價　六圓
送料　三十錢

甲文堂

大阪市淀川區東中島通
振替大阪六二五二〇番

東京市神田區錦町一ノ一十
振替東京七三八一二番

關西大學學會發行

關西大學 研究論集

第一號（昭和九年十月發行）
第二號（昭和十年二月發行）
第三號（昭和十年六月發行）
第四號（昭和十年十一月發行）
第五號（昭和十一年七月發行）
第六號（昭和十一年十二月發行）
第七號（昭和十二年十一月發行）
第八號（昭和十三年十一月發行）

定價各壹圓
送料十錢

發賣所 甲文堂書店
大阪市東淀川區長柄中通
振替六二五二〇番

第九號 法律・政治篇

（昭和十四年十二月發行）

天皇現御神思想の瞻仰……教授 吉田一枝
國家の方法論的理解……教授 岩崎卯一
安定と變化より觀たる九國條約の適用……教授 川上敬逸
國内法に於ける公序……教授 柳瀨兼助
フランス法における生存配偶者の相續權……教授 木村健助
合資會社有限責任社員の責任の特色に就て……教授 野村次夫
成立中の株式會社……助教授 國歳胤臣

第九號 經濟・商業篇

（昭和十四年十二月發行）

地方稅制の考察……學長 神戸正雄
利子と貨幣的要因……教授 森川太郎
國民所得の統制……教授 正井敬次
明治初年に於ける取引所制度概要……助教授 佐伯三郎
布哇に於ける本邦移民について……教授 河村宜介
衞星都市商店街の構成と動向……教授 加藤金次郎
ブルノ・ヒルデブラント 教授 赤羽豐治郎

第九號 文學・哲學篇

（昭和十四年十二月發行）

行の教育……教授 三枝樹正道
キエルケゴールの絶望概念……教授 大小島眞二
春秋時代に於ける國交（一）……岡本勝治郎
蘆庵と景樹（上）……助教授 安川安太郎
英文學の哲學的構造……教授 片岡甚太郎
J. M. Barrie 覺書……教授 山田松太郎
THAT の指示的性質……教授 八鳥治一
方陣論……教授 河村信一

近刊豫告